

以上極めて簡単ながら、私は創造本位教育方法観の梗概を説述したから讀者諸君は一通り解されたことと思ふが、更に理會を一層明かにするために、左に綴方教授に關する卑見の一端を掲げることとする。但し、以下の一文は舊稿に屬するが故に、不滿な點が少くないが、改訂を試みる時には全部書き改める必要があるのに其の暇がないので、遺憾ながら茲には舊態のまゝにして置き、別な機會に於て増訂することとする。

### 創造本位の綴方教授

我が「創造教育」は、種々の方面に於て限界があるが、就中學科の性質に依る限界が最も注意を要するものである。即ち、創造教育は學科によつて其の効果が異り、隨つて其の適用の方法も異にすべきものである。勿論、創造教育を廣義に解する時には、如何なる學科にも適用することが出来るが、嚴密な意味及び十分な意味に於て創造教育を行ふに最も恰適した學科は、理科・讀方・綴方・修身・手工・圖畫・算術である。就中綴方は學科の性質上最も効果の多いものである。

翻つて思ふに、最近、綴方教授の研究者が次第に増加しつつあるにも係らず、依然として其の効果が顯著でないのは、一つは、本科が本來困難な學科であることにも由るが、一つは、其れの研究法に間然するところがあることに由るのも亦たしかに否むべからざる事實である。然らば、いふところの綴方教授に關する研究上の缺陷とは果して何であらうか。一言にすれば、創造教育を立脚地としないといふことである。然り、私から見れば、綴方教授の改善は、

只創造教育の見地から試みてのみはじめて十分な効果を擧げることが出来るのである。これ、私が茲に本論を草して實際教育家諸君の一讀を乞はうとした所以に他ならない。

さて、この主題の討究に於て、第一に明らかにすべきは、何故に綴方は特に創造教育を行ふに適するかといふことである。私がこれまで幾度も反覆したやうに、創造教育の直接目的は、被教育者の創造性の助長にある。然るに、綴方の目的は、畢竟するに兒童をして自己の創造性を最も自由に發動させることに依つて其の本質的發達に資益することに存するのである。然り、少くとも嚴密な意味又は狹義の綴方即ち美的教科としての綴方（この他綴方には實用的教科としての綴方の一面がある）が徹頭徹尾創造的又は個性的なものであることは、綴方が其の過程に於ても其の結果に於ても共に萬人萬殊であり且あるべきことに徴して、即ち所謂「文體は人格である」ことに徴して明かなことではないか。實に、綴方程兒童——創造性の權化としての兒童の本性に恰適したものはないのである。これ、私が綴方を以て創造教育の典型的教科であると見る所以に他ならない。否、私は單に綴方を以て創造教育の典型的教科と見るだけではなくて、各種の教科中最も價値あり、隨つて最も重大視すべき教科であるとするものである。殊に、この教科は在來甚だしく輕視されてゐたことに想到する時には、この點を特に力説する必要を痛感するものである。

私から見れば、綴方は讀方の下位に立つべきものではなくて寧ろ其の上位に立つべきものである。蓋し、讀方は其の他の教科の豫備的教科であるが如く、綴方に對しても亦豫備的教科だからである。換言すれば、讀方は、諸多の知識を收得するに必要な言語文字文章を授けることを直接目的とし、自己の思想感情を發表するに必要な力を與へる

ことを究極目的とするものであり、そして、他から知識を收得することよりも自己の思想感情を表現することが、人生究極の目的に對して一層價值あることだからである。この意味に於て、讀方は綴方の力を俟つてはじめて其れの眼睛を點ぜられるといはなくてはならない。斯くいへばとて、私は決して讀方を蔑視するものではない。要は、綴方を蔑視することが誤謬であることを注意すればよいのである。換言すれば、綴方を單に實用的教科とのみ視て、其の本質精髄が美的教科たるところにあることを理會し得ない點を警告すればよいのである。そして、この點から見ると、綴方は「綴方」といふ名稱に不満を感じるものである。何となれば、「綴」とは「つづくる」「つきあはす」の義であるのに、美的教科としての綴方の眞髓は、寧ろ「創造」又は「創作」にあるからである。この意味に於て、私は舊名の「作文」の方が一層この科にふさはしいと思ふものである。

然らば、斯くの如き意味に於ける綴方教授の目的を達成するには、抑も如何なる點に注意すればよいであらうか。この點を明かにするには、少くとも「綴方に必要な要素」と「綴方教授に必要な條件」との兩面を檢照しなくてはならない。

先づ、第一點について見るに、文を綴るには(一)綴らんとする意志即ち創作欲、(二)創作の目的内容即ち文題、(三)創作の材料、(四)創作の動力即ち創作力努力及び一定の時間が必要である。随つて、綴方教授の目的を達成するには必ず被教育者をしてこれらの要素を最も有効に具備させるやうにしなければならない。

次に、第二點について見るに、これは更に間接的・直接的の兩面に別つて見る方が便宜である。謂ふところの綴方教授に必要な間接的條件とは、畢竟するに被教育者をして上記綴方の要素を最も十分に具備させ、且其れを最も有効に活用させるやうにする上に必要な條件である。そしてこれには種々あるが、其れの主要なものを列擧すれば、第一に、被教育者をして他の文章を多く讀ませ、よい文章を讀ませ、十分に味はせることが必要である。世には、多讀は創作力を損傷するといふものがあるが、私から見れば決してさうではない。勿論、いふところの多讀が單に量的の意味であつて、悪文でも何でもかまはず、數さへ多く讀めばよいといふことであるならば、これは論者の言の如くたしかに創作力を損傷する。併しながら、其れでさへも多讀は害に比して益が多いのである。況んや、其れが質的意味のものであるならば、即ちよい文章を十分に味讀するといふことを條件とする多讀であるならば、これは創作力——作文力の發達上文を作ることに次いで最も主要な後天的條件であるといはなくてはならない。この意味に於て、私は、綴方教授の成績を擧げようとするならば、被教育者をして絶えずよい文章を出来るだけ多く讀ませ、そして出来るだけ十分に味はせるやうにしなければならないとするものである。

第二に、發表能力の涵養が必要である。そして其れがためには、單に文字通の發表法——文字及び言語に依る發表法を練習するだけではなくて、讀書や思索の場合に於ても、發表といふことを念頭に置いて、讀んだこと又は考へたことは何時も發表の緒口が付いてゐるやうに、即ち、統一され整理され發動的形態を具へてゐるやうにすることが必要である。

第三に、被教育者をして綴方の意義と價值とを理會させ且これを好愛させるやうにすることが必要である。即ち、

断えず彼等をして旺盛な創作欲を持たしめるやうにすることが必要である。そして、これがためには、單に狹義の創造性を涵養するだけではなくて、彼等の精神乃至生活をして創造的ならしめるやうにする、即ち廣義の創造性を助長することに努めなくてはならない。尙この點に聯關して教育者の注意を要することは、文章は畢竟するに人格の現はれであり、随つて立派な人格者であつて始めて眞に立派な文章を書くことが出来るといふことを理會し、且被教育者にも理會させるといふことである。勿論、これは只或る程度迄發達した被教育者のみ理會し得ることであるから、小學校に於ては強ひて説く必要はないが、少くとも教育者だけはこの點を理會して、暗黙の間に被教育者にもこの間の消息を理會させるやうにしなければならない。

第四に、教育者自ら綴方の意義と價値とを理會し且これを好愛すると共に、優れた創作力を有し、事實に於て自ら優れた創作をすることが必要である。勿論、これは單に綴方に關してばかりでなく、凡そ如何なる學科に於ても、教育者が其の學科を理會し好愛し、且其の學科に就いて深い造詣を持つといふことは、其の學科の教授を成功に導く所であるが、殊に綴方科の如く一般教育者から蔑視され嫌厭されてゐる教科に於ては、上記の點に十分な注意を拂ふことが、本科の成績を擧げる上に特に必要なことである。

次に、第一點に就いて見るに、これにも種々ある。第一に必要なことは、創作の動機を充實することである。即ち創作欲を旺盛活潑にして進んで創作させるやうにすることである。そしてそれがためには文題の取扱方に注意しなくてはならない。最近この理由から自由選題を主張するものが多いが、私は必ずしも自由選題を本體とする見解を是認

するものではない。勿論、中等學校の上級生位な被教育者であるならばそれでもよいが、精神の未熟な小學校程度に於ては、自由選題は一見極めて有効な方法のやうでありながら、實は甚だしく困難であり随つて比較的効果の少い方法である。何となれば、眞に自由に文題を選ぶといふことは大人にとつても困難であると共に、眞に自由にはなくして單に衝動的に出鱈目に文題を選ぶといふことが綴方教授の成績を擧げる上にさしたる効果はないからである。更に一步をゆづつて、自由選題が困難でなく且有効であるとしても、文字通の自由選題を以て綴方教授の主要方法とすることは私の賛成し得ないところである。何となれば、教育―少くとも小學校教育の本旨は（被教育者の自己教育ではなくて）幫助にあるからである。随つて自由選題を行ふ場合にも、教育者は眞に適切な幫助をしなくてはならない。即ち、謂ふ所の「自由」をして單に衝動的なものたらしめないで眞の意味に於ける「自由」たらしめるやうにしなければならない。

第二に必要なことは、創作の幫助である。即ち、構想及び記述に對して適當な幫助をすることが必要である。これを具體的にいへば、先づ文題の意味を正確に理會させ、次に記述すべき材料を明らかにし、次に中心思想と副貳思想との別を明かにし、最後に、發表即ち記述の順序を明かにすることが必要である。そして、記述すべき材料を明かにするには問答又は回想に依ることもあれば、或は新たに材料を提供することもあるが、綴方の本旨からいへば前者を主とすべきものである。何となれば、新らしく授けられた材料は其の時間内では十分に消化も酸酵もせず、随つて創作の動機を構成しないからである。更に、發表の順序を明かにする―思想の排列配合を整へることに關して注意すべき

ことは、論理的（即ち明瞭と正確とを主として）と美的（美と巧妙とを主として）との両面に注意し、思想を最も個性的に表現することを旨とすべきことである。そして其のためには、極端な自由選題法に依る場合は別であるが、通例教育者はこの両面から見た思想整理の典型を示して被教育者の参考に供することが必要である。

尙この點に關して注意すべきことが二三ある。其の一つは、構想記述の間はなるべく被教育者の創作作業を妨害するやうなことがないやうにすることである。即ち、隣室に於て體操や唱歌などのあるのを避けるとか、教師も児童も沈黙靜止の状態を保つとかいふが如きは其の一例である。其の二つは、被教育者の精神の自由を拘束しないやうにすることである。たとへば創作中に教室の窓から校庭や向ふの山や蒼穹や飛ぶ鳥やいろ／＼のものを眺めながら思想をまとめようとするところがあるが、斯ういふことを單に「わき見をする」といふ理由で叱つたり止めたりしてはならない時間も出来るだけ自由にして、十分や二十分の融通を與へるやうにしないでなければならない。そのためには時間割に注意して、食事前又は最終の時間を綴方に當てるとか或は學校で完結しない時には家庭で完結せるとかするやうな自由を與へなくてはならない。其の三つは、被教育者の創作力を減殺しないやうに注意することである。それがためには被教育者が構想の際又は記述の際などに疲勞した時には、他の児童の邪魔をしないやうに席を立てて校庭に出て二三分深呼吸をするとか、一掬の清水を飲むとか、好きな繪や本を見るときするやうな自由を與へることが必要である。或は一定の時間を見て教室の窓をからつと明け離すとか、一齊に深呼吸をさせるとかいふやうなことも有効なことである。時としては教室以外の場所で綴らせることも必要である。其の四つは、記述中の机間巡視を有効にすることである。

ある。そして机間巡視を有効にするには、餘り頻繁に且餘り騒がしくしないやうにすると共に、即かす離れざる態度を以て児童に接することが必要である。強ひて干渉したり、立ち止つて何時までも児童の書くのを見てゐたりすることは最も悪いことである。児童の間に答へる位でよいのである。そしてそれも出来るだけ小さな聲で他の児童の邪魔にならないやうにすることが必要である。其の五つは、記述に全力を注がしめ、文章に苦心させるやうにすることである。其れがためには、書き上げた後には必ず丁寧に二度も三度も読み直させ、これで十分だと思つた時に出させるやうにしなければならない。そして其れには記述と殆ど同様の時間を費すやうにすべきである。尙この自己訂正を有効にするには、書き上げた後には、必ず何等かの形で休息させて心氣を爽快鮮活旺盛にすることに努めなくてはならない。勿論これのためには綴方の時間を多くすることが必要である。私から見れば綴方の教授の一単元は二時間ではなくてはならない。勿論低學年又は狹義の綴方教授や板上訂正の際には一時間で澤山だが、美的教科としての綴方は二時間以上を費してのみはじめて効を奏するものである。但し、二時間引續き綴らすのではなくて、前述の如く其の間個性に適した休憩をさせるやうにするのである。要するに、私の考によれば數を多く作らせるよりも力一ぱいに綴らせることが有効である。この意味に於て、私は綴方は二時間一單元制にすることを要望して止まない。そして在來の如き一時間一單元の綴方は讀方科に於てすべきものである。尙自己訂正の際には隣の児童と訂正し合つてもよいし、或は参考書を見てもよい。否これを以て本體とすることが必要である。

第三に必要なことは、改造の幫助である。改造即ち訂正の方針は何處までも内在的批評主義により、被教育者個々

の文章及び個性乃至能力を本位として訂正加筆するやうにしないでならない。随つて訂正加筆の多寡は直ちに成績の優劣(多即劣、寡即優)ではない。否時としては寧ろこの反對に、優良なもの程多く訂正加筆し、劣等なもの程少く訂正加筆するといふやうなこともあるべき筈である。この意味に於て評語にも出来るだけ多くの段階がなくてはならない。若し評語を少くする時には、評語以外に教育者の感想又は批評を添へ、時としては直接詳細に批評するやうにしないでならない。尙の點に關して注意すべきことは、綴方の成績は文字通に百人百異のものであるから、教育者は全體の成績を眞的確公平に評價することは極めて卓越した鑑賞力と極めて周到な用意とに俟つてのみはじめて可能であることを理會するやうにしないでならないといふことである。

以上、極めて簡單ながら、創造教育の見地から見た綴方教授に關する感想の一端を披瀝した。綴方教授に關して説くべく論すべきことは勿論この他極めて多いが、紙面の都合上今は只これだけに止め、詳細の議論は別な機會に譲ることとする。(『創造』第一卷第三・四號掲載)

#### 第四節 創造本位の教育手段観

既に一言したやうに、狭い意味に於ける教育の手段とは、教育の目的理想を達成するに必要な間接の方途であつてこれは更に制度・機關・設備・素材の四つに別つことが出来る。但し茲にはこれらの全體に亘つて十分の説明を試みる餘

地がないから、單に小學校の機關設備中の重要なものを一まとめにして列擧するだけに止め、詳細は別な機會に譲ることとする。尙創造本位の手段觀の根本特色は、畢竟するに、被教育者の創造性を十分に發動し發達させるといふことを第一義とする點にあることは既に一言したところである。以下、學校教育上の一般的手段と各科教授上の手段とに別ち、且後者には狹義の方法をも交へて説明することとする。

##### (甲) 一般的手段

(一) 學校の組織。學校は児童及び職員より成り、職員中の校長は學級を擔任せず、隨時指導や補缺をなすことが出来るやうにして置く。一學級には必ず專任の訓導一名を置き、五名毎に補助教員一名を置き、體操・唱歌・圖畫・手工・裁縫はそれ／＼専科訓導を以て充てる。小使は必ず二人以上とし、且男女半數づつとする。學級數は六乃至十を限度とする。職員數は十乃至二十、児童數は百五十乃至五百を以て限度とする。

教室は一學級一教室とし、各教室の間は必ず音聲の漏れないもので區別すると共に、自由に取外しが出来る随つて教室も伸縮自在ならしめるやうにし、且その大きさは机間及び周圍が自由に歩行することが出来、且教壇と児童席との距離が適度である他、必要な用具を置いたり裝飾をしたりすることが出来ることを以て最低限度とする。教室以外には少くとも講堂(全校児童を網羅し得るだけの)・職員室・宿直室・内外運動場・機械器具圖書室・自修室・裁縫室・家事室等を設けるやうにしないでならない。尙職員室は出来るだけ學校の中央に定め、講堂や運動場や自修室も全校中最も便宜のよい所を選ぶやうにしないでならない。但し、運動場や唱歌室には音響が他に漏れないのと自修室は

あまりさはがしくないだけの設備が必要である。

低能兒多數の時には特殊學級を設けるけれども、さうでない場合にはこれを設けず、一教室中の一方(前方の片隅)に集めて置いて、主として一般教授中に適切な指導を施すやうにする。

(二) 學制級編。一學級の定員は三十名を標準とし、最少二十名最多五十名を超えないやうに注意する。尋常科に於ては、男女共學を本體とし、高等科に於ては、男女の員數相近き時には共學とし、然らざる時には別學とする。同一學年が數組ある場合には、必ず一日に一回は一緒にやるやうにする。三學年(詳しくは、一三三年、一三四年、三四五年、四五六年といふ如く)を一團とし、これらの一團は必ず少くとも一週に一回は合同の教育を受けるやうにする。全校兒童は必ず少くとも一週に一回は合同の教育を受けるやうにする。時によつては男子だけ又は女子だけを集めて教育することもある。

(三) 職員部署。全職員は必ず全校に關係する教務及び事務の責任を負ふやうにする。擔任は持上りを本體とし擔任變更の最少限度は三個年以上同一級を受持つこととする。特殊の性能あるものは、擔任の如何を問はず、他の學級又は學校全體のその科について研究及び助力をする。

#### (四) 會合。

(イ) 職員の會合。職員會・擔任會・研究會・懇談會。  
(ロ) 兒童の會合。學級會・學年會・男子會(端午の節句)・女子會(雛の節句)・全校會・學藝會・談話會・運動會。

誕生日・偉人記念日・大事件記念日・學級展覽會・全校展覽會・天真デー(各學期一回)・創造祭(學校創立記念日)・入學歡迎會(四月二日)・卒業送別會(卒業式日)・歡送會(教師轉免新任の際)。

#### (五) 授業時間。

(イ) 毎日必ず第一時限に全校一緒に集つて朝會を行ひ、放課時間の同一な學級合同して夕會を行ふ。

(ロ) 第一時及び最終時は一日間の授業の全般的取扱をする。

(ハ) 第一時及び最終時は幾分授業時間を短縮する。一教授の時間は一時間四十分とし、時宜により、且他の學級の授業を妨げないかぎり伸縮自在とする。

(ニ) 晝食後の休憩時間を一時間とし、主としてこの間に自修室や學校園や樂器やを利用させる。

(ホ) 毎週月曜日と土曜日、毎學期及び毎學年第一日と最終日には常時の時間割を撤廢して其の週其の學期及び其の學年間の授業の全體的取扱をする。

(ヘ) 天候其の他の都合により授業時間の伸縮遅速等を出来るだけ自由にする。

(ト) 毎日授業前(時間授業後)一時間だけ學校を開放し、教師監督及び兒童自治の下に兒童の自由生活を營ませる。

(チ) 長期の休暇には必ず兒童の環境に適切な教育的處置を取るやうにする。

(リ) 必要に応じて所定の課業(一時間又は全日)を廢して適切な教育をすることもある。

#### (六) 自修用具。

- (イ) 疑問帳。學力増進のため各教室及び自修室(下級用及び上級用)に備へつけて置いて自由に児童に使用させ、愛持教師及び當番教師は毎日これを檢閲し且これに對して適切な處置を施す。
- (ロ) 向上録。徳性向上のため各教室及び児童控所に備へ付けて置いて自由に児童に使用させ、愛持教師及び當番教師は毎日これを檢閲し且これに對して適切な方途を講ずる。
- (ハ) 自修板。教室及び控所にこれを掲げ、一定の規定の下に児童に有効に使用させるやうにする。但し在來の教師用掲示板は勿論これと併用する。
- (ニ) 自修帳。尋常三年以上に學校用及び家庭用各一冊宛必携させる。

**(七) 時間割。**

- (イ) 一日中の教科及び前日と後日との教科は出来るだけ聯絡を保たしめるやうにする。
- (ロ) 第一時と最終時とは出来るだけ努力の少い教科を宛てるやうにする。
- (ハ) 一學期毎に変更することを本體とする。

**(八) 教科教材。**

- (イ) 尋常一年の一學期は教科を區分せず、尋常六年の三學期も亦これと同様にし、前者に於ては小學教育全體の豫備を行ひ、後者に於てはその仕上することに主力を注ぐやうにする。前記各期間の始終に於ても亦これに準ずる。

(ロ) 弊害を生じない限り、學校に於ても教科書及び所定の學用品以外のものを使用させ、且これに對して適切有效な指導を試みるやうにする。

(ハ) 上級生殊に六年生には教科及び教材選擇の自由を持たしめ、且これに對して適切有效な指導を與へる。

(ニ) 創造及び創造者(發明發見及び發明者發見者)又は天才偉人に關する材料を出来るだけ豊富に且有効に課するやうにする。

**(九) 成績考査。**

- (イ) 入學の際には出来るだけ正確細密な性能検査を行ふ。
- (ロ) 成績考査は一般性能と特殊性能(長短)との考査に等分の力を注ぎ、上級になるに従つて創造性の本質を闡明にするやうにする。随つて在來の機械的な記憶本位の試験は單にその一方法としてのみ採用する。
- (ハ) 成績は児童及び保護者に隨時通知するが、これを單に通知簿のみに委ねず、教師親しく保護者と會見して考査の正確と其の應用の有効とを期するやうにする。
- (ニ) 評點よりも評語を用ゐ、品行は具體的記述を用ゐる。
- (ホ) 通知簿は六學年間共通のものを用ゐ、成績の上下を一見明白ならしめるやうにする。

**(十) 教授細目及び教案。**

(イ) 教授細目は出来るだけ簡單にし、取捨選擇の餘地を大ならしめる。

(ロ) 教授週案は教授細目に準じ、教授日案は出来るだけ詳細に調製する。

(ハ) 機械的申譯的な校長乃至首席の檢閲を排し、職員の一部又は全部にて比較研究をするやうにする。

(十一) 自修室。児童の創造性を十分に發動發達させるために必ず一個以上の自修室を設ける。その大きさは少くとも全校児童の五分の一を網羅し得るものでなくてはならない。自修に必要な書籍雜誌新聞辭書器械器具を備へ付けて置くのはいふまでもない。尙當番教師及び當番児童が一切の責に當るやうにして置く。そしてその用法には二つある。補助的使用と獨立的使用とである。補助的使用とは教師其他上級生などが指導して使用するものであり、獨立的使用とは全然獨立的に使用するものである。尙後者は更に定時使用と不定時使用とに別つことが出来る。定時使用とは一定の時間内に使用させることであり、不定時使用とは隨時使用することである。(補助的使用はいふまでもなく定時使用である。)不定時使用は主として優等生の使用するものであつて、一定の仕事たとへば綴方とか圖畫とか算術とかいふものを他の同級生よりも早くすまして餘つた時間に使用するもの、又は一般の児童も自由的教科の間までに於て必要な調査なり下調べなりをする時に使用するものである。私は創造教育の本旨から見て不定時使用の必要を力説するものである。尙自修室の監督に當る教師は必ずしも徹頭徹尾これに當る必要がない。即ち、教師は教師自身の勉強なり仕事なりをしてみて一向差支がない。只児童の要求や必要に應じて適切な指導を與へさへすればよいのである。

## (乙) 各科教授上の手段

### (一) 修身科。

(イ) 本科に於ては意的創造性の助長を主眼とする。

(ロ) 被教育者をして道徳は彼等の學校生活否生活全體に關係するものであることを理會せしめ、隨つて其の取材も應用も出来るだけ廣く且彼等の生活に切實ならしめることに注意する。

(ハ) 突發事件や時事問題なみに對して妥當な批判を試み適切な態度を取り得るやうに指導する。

(ニ) 材料を多くするよりも適切な材料を有効に活用することに力を注ぐ。即ち徹底的理會と實踐應用とを主眼とする。

(ホ) 常に被教育者をして高遠な理想を持たしめ、且自律的に思索行動せしめることを主眼とする。

(ヘ) この科に於て教授したことは他の科の教授の時にも注意して其の效果の徹底を期するやうにする。

(ト) 創造性を涵養するに適切な材料を出来るだけ多分に課するやうにする。

(チ) 時々道徳に關する被教育者各自の問題を教材として取扱ふことに努める。

(リ) 本科を重大視するあまり、教師児童其他科の教授の際と格段に異つた言語態度を用ふるが如きよそゆきの教授法を用ゐないやうに注意する。

### (二) 讀み方科。

(イ) 本科に於ては知的創造性の助長を主眼とする。



- (ロ) 被教育者をして出来るだけ速に必要な文字を読み得ると共に書き得るやうにせしめることに力を注ぐ。そしてそのためには、速に讀書及び書字の要領を會得せしめるやうにするのは勿論、適當な課外讀物を奨励すると共に、讀める文字は必ず書かされるやうにする。尙課外讀物は讀み方の時間に於て出来るだけ有効に活用することに努める。
- (ハ) 尋常三年に於て字引の使用法を教へ、且教室に於て字引を使用させる。随つて三年以上の各教室には必ず適當な字引を備へ付け必要に応じて兒童に使用させるやうにする。
- (ニ) 教科書・手帳・時間割・其の他學校に於て常に兒童の目に觸れる文字は一刻も速かに讀み且書くことが出来るやうにする。
- (ホ) 尋常一年より漢字と假名とを混用して教授し、易より難にすむ方針を取る。
- (ヘ) 文章に關する知識を與へ、文章の鑑賞力を涵養し、綴り方との聯絡を近密ならしめるやうにする。
- (ト) 創造的精神を涵養するに適切な材料を出来るだけ豊富に加味するやうにする。
- (チ) 上級生には文學上の傑作及び文豪について適切な知識を與へるやうにする。
- (リ) 豫習及び復習を重大視する。

(三) 綴り方話し方科。

- (イ) 本科に於ては知的創造性(特に其の發動的方面)技能的創造性(發表力)及び情的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) この科を讀み方中の一文科とせず、讀み方と同格の獨立科として重要視し、且つ尋常一年より課する。但し、時に應じて二科並せて課することもあり又別けて課することもあるが前者を以て本位とする。
- (ハ) 兩科とも課題法の場合にも出来るだけ兒童の創造性を活用させるやうにする。
- (ニ) 自由選材(題にあらず)法を本體とするが餘りに極端に流れないやうに注意する。尙話し方綴り方の性能を伸長させるために、低學年に於ては方言混用(話方)及び片假名平假名の混用に對しては寛大な態度を取る。
- (ホ) 綴り方に於ては文章の鑑賞に力を注ぎ話し方に於ては聽き方の練習に力を用ゐる。
- (ヘ) 綴りに於ては推敲・自己批評及び訂正後の處置を重大視する。
- (ト) 綴り方に於ては成るべく落ちついて文を綴らしめることに意を用ゐる。
- (チ) 詩歌・童話・小説・戯曲を作ることを得しめるやうに指導する。

(四) 書き方科。

- (イ) 本科は技能的創造性及び情的創造性の助長を主眼とする。即ち文字を正確迅速且美しく書くことを主眼とする。前二者は他の教科と聯絡を保つことによつて目的を達成し、本科に於ては主として第三の目的の達成に力を注ぐ。
- (ロ) 硬筆習字を主とし、毛筆は尋常二年、ペン習字は尋常三年より鉛筆習字と併せて課す。
- (ハ) 細字の練習に主力を注ぐ。

- (三) 出来るだけはやく實生活に必要な書方を指導する。
- (ホ) 出来るだけはやく手本をはなれて自由に書き得るやうに指導する。
- (ヘ) 筆法結構等を出来るだけ自力にて考案させ、且自己批正を重んずる。
- (ト) 手本及び教師の書風を過重視する結果児童獨得の書風を蔑視することがないやうにする。

#### (五) 算術科。

- (イ) 本科は知的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 百以下の計算に重きを置き、出来るだけはやく確乎たる基本的性能を涵養するやうに力める。
- (ハ) 児童をして答よりも算法を重視する習慣を養はしめ、檢算に意を用ひ、斯くして精確緻密な思考力の發達を期する。
- (ニ) 理法算法解法は出来るだけ児童自らをして發見し理會せしめる。
- (ホ) 児童をして自己課題相互課題問題の改作等に力を用ひしめる。
- (ヘ) 高程度教科書其の他課外参考書の使用を許す。
- (ト) 練習に重きを置く。
- (チ) 問題の解法上主要點を見出さしめ且運算を始める前に答の解算をなす習慣を養ふことに力める。
- (リ) 時々不完全な問題を課したり、誤謬ある運算を行つたりして児童の注意力又は究理力の發達をはかるやうにする。

する。

#### (六) 歴史科。

- (イ) 本科は知的及び情的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 歴史の教材は常に現代に聯關さして取扱ふことを旨とする。
- (ハ) 歴史は問題の發展の記録であるが故に常に児童をして研究的精神を以てこの科に對せしめるやうにする。
- (ニ) 年代代表人名等の機械的語記を過重視する弊を排し、出来るだけ児童自身とし前後の聯絡・事件の中心等を明かに理會させ、文化進展の跡を明かにするやうにし、且批判力の養成に力を用ひる。
- (ホ) 年代圖要覽表解等は出来るだけ児童自身をして作製させる。
- (ヘ) 創造者又は偉人發明者發見家の傳記を詳述し、且その誕生日命日又は偉業の記念日等を利用することに注意する。
- (ト) 参考書課外讀物等を適切有効に使用させる。
- (チ) 地理科との聯絡を重大視する。
- (リ) 上級生には教科書以外の主題にて歴史の研究をさせる。
- (ヌ) 文化史を重大視する。

#### (七) 地理科。

- (ヌ) 文化史を重大視する。

- (イ) 本科は知的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 郷土地理の教授に重きを置き、これに依つて明確な地理的觀念を養成するやうにする。
- (ハ) 實物教授を尙び、出来るだけ校外教授や旅行や参考品の觀覽に力を注ぐ。
- (ニ) 出来るだけはやく地圖を読むことを覚えしめ、且正確に地圖を読み得るやうになれば地圖を最も主要な郵便物として教授を行ふやうにする。そして尋常一年より時に應じて地圖を見せるやうにする。尙自ら地圖や圖表を畫き、模型を作成する能力も出来るだけはやく涵養する。
- (ホ) 尋常四年より地理を課する。但し一個年間は歴史と併合し、地理歴史科として課する。
- (ヘ) 上級生には教科書以外の主題にて地理の研究をさせる。
- (ト) 人文地理を重大視する。

#### (八) 理科。

- (イ) 本科は知的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 實驗に重きを置き、出来るだけ兒童に實驗殊に自由實驗を行はせる。そしてそのためには出来るだけはやく實驗に關する指導をすると共に、實驗用具を完備し、兒童にも簡易實驗用具を携帯させ、斯くして發見力發明力の發達につとめる。
- (ハ) 長期の休暇なきには自由研究を奨励し、且學級全體又は協同の自由研究を奨励する。

(ニ) 尋常一年より直觀科の名に於て本科を課し、はやくから旺盛な理科的興味と鋭敏な觀察力とを涵養することに力める。

(ホ) 教材によつては發明發見の順序を辿つて學習せしめる。

(ヘ) 兒童をして發明者發見家や有名な科學者なきの傳記、殊に其の發明發見に關する苦心談を知らしめ、且時々其の肖像をも見せしめる。

(ト) 成るべく實物を用ひ、且日常經驗するものについて正確詳密に觀察せしめ、明白精緻に思索せしめるやうにする。

(チ) 學習の過程を尊重し、且其の結果は十分應用し、更に實習製作をも重要視する。

(チ) 手工圖畫算術其の他の教科と聯絡を保ち眞に活ける理科的知識を獲得せしめることに注意する。

(ヌ) 兒童に理科帳を携帯させて自學に便にする。

#### (九) 圖畫科。

(イ) 本科は知的感情的及び技能的創造性の助長を主眼とする。

(ロ) 自由畫を本體とするが、低學年に於ては臨畫に重きを置き、且その改作應用に力めると共に、描畫の方法順序は出来るだけ兒童自身をして發見せしめるやうにする。寫生畫・考案畫・記憶畫に於ても亦出来るだけ兒童の自由に任せるやうにする。

- (ハ) 應用に重きを置き、圖畫を生活化するやうに心掛ける。
- (ニ) 特に個人指導を重大視し、批評は個的特色を没却せざるやうに注意する。
- (ホ) 鑑賞力の涵養に力を注ぎ、児童をして出来るだけ多くの優秀作品に接せしめる。
- (ヘ) 手工や理科や地理や算術と聯絡を取り、眞に活能力を具有させるやうにする。
- (ト) 鉛筆紙等の鑑別力を涵養する。

(十) 手工科。

- (イ) 本科は知的情的及び技能的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 思考力の活動即ち工夫を重んじ、創作法を本位とし、模作法を副とし、随つて工夫創作の可能性の多大な教材を用ふることに力める。
- (ハ) 理科の器械其の他の器具器械の組立等を十分に説明し、時としては分解させてその製法を明かにする。
- (ニ) 圖畫及び理科と聯絡を取り製圖を多く課すると共に應用に力を用ゐる。
- (ホ) 作業により勞動努力熱心等の徳性の涵養につとめる。
- (ヘ) 模倣作の場合に於ても出来るだけ改作應用に力を用ゐる。
- (ト) 用具の手入は出来るだけ児童自身に行はしめる。
- (チ) 特に個人指導を重大視し、批評はなるべく暗示的方法に據る。

(リ) 鑑賞教育に努める。

(十一) 唱歌科。

- (イ) 本科は情的及び技能的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 児童の歌はんとする衝動に十分な満足を與へるやうにする。そのために唱歌の時間以外の時間に於ても弊害のないかぎり成るべく多く歌はしめるやうにする。
- (ハ) 觀照力の涵養に意を用ゐ、唱歌の時間に於ては教師は必ず児童の能力に適した名歌曲を彈奏するか自ら歌ふやうにする。

- (ニ) 土地の俗謡について適切有効な指導をする。
- (ホ) 學校生活に於て出来るだけ多く唱歌を利用するやうにする。
- (ヘ) 児童に樂器の使用を許し且適切な指導をする。
- (ト) 發明發見に關する教材を出来るだけ多く課す。
- (チ) 児童をしてひとりで歌ひひとりで演奏し得るやうな力を養はしめる。
- (リ) 上級生には歌詞歌曲の創作を獎勵し且これを指導する。

(十二) 體操科

- (イ) 本科は身的及び技能的創造性の助長を主眼とする。

- (ロ) 劃一的強制的教授法を排し、個別的自律的教授法を用ゐるやうにする。そのためには出来るだけ號令を用ゐないやうにするのも一方法である。
- (ハ) 各運動の目的要領と自己の身體の状態とを會得せしめることによつて自覺的に隨つて適切有効に運動せしめるやうにする。
- (ニ) 遊戯及び舞踏を重んずる。
- (ホ) 金棒・テニス・羽子付・まりつき等の運動について適切な指導を與へる。

(十三) 家事科。

- (イ) 本科は經濟的及び技能的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 實用と趣味、理論と實際との調和に重きを置き、この科をして眞に價値ある家庭生活の一大要素一大動力たらしめるやうにする。
- (ハ) 理計算術等と聯絡を保つことによつてこの科の教授に確乎たる理論的基礎を附與すると共に應用工夫に力を用ゐしめるやうにする。
- (ニ) 上級生には出来るだけ實地に應用せしめる機會を持たしめるやうに努める。たとへば學藝會とか運動會とか儀式とかの場合には茶・生花・食事・來賓の接待等に當らしめるが如き即ちその一例である。
- (ホ) 家庭と聯絡を保ち、理會力と應用力との發達をはかる。

(十四) 裁縫科。

- (イ) 本科は技能的・情的及び知的創造性の助長を主眼とする。
- (ロ) 先づ一般的陶冶に主力を注ぎながら次第に形式を超越し、型を脱し、個性と材料とに即して能力を自由に活用し得ることに力め、隨つて個別指導を重んじ、適切な批正法を用ゐる。
- (ハ) 工夫考案多き材料を出来るだけ多く用ゐる。
- (ニ) 土地の状況によつては西洋裁縫やはた織や刺繡造花等の手ほぎきをもする。
- (ホ) 應用教材に於ては、出来るだけ自ら工夫を用ゐ又は標本や模範を観察することによつて裁ち縫ひせしめるやうにする。
- (ヘ) 縞柄地質等の鑑別力を涵養することに力を注ぐ。
- (ト) 布きれ利用法や補綴の仕方を指導し、且これを實地に應用せしめる。

第五節 創造本位の教育法實施上の注意

古來いふ、「法は人なり」と。たしかに法は人によつて活きもし死にもするのである。我が創造本位の教育法に於ても亦さうである。隨つてこの方法に依つて有効な成果を收めようとするものは、先づこの點について明確な自覺を持

たなくてはならない。即ち、この方法を實施して十分な成果ををさめようとするには、何よりも先づ教育者自らの教育法に適したやうな人格材能を具備することが必要である。別言すれば教育者自ら創造的にならなくてはならない併しながら、これと共に、この方法を活用すること、を飲み込むことも亦必要である。以下この見地から、この教育法を實施して成果ををさめる上に必要であると思はれるもの、中特に重大な諸點を列擧して實際家諸君の参考に供することとする。

(一) 適用上に制限があることを理會せよ。前文に於て幾度も反復力説したやうに、我が創造本位の教育観は理論的にも實際的にも普遍的妥當性を具備することを要望するものであり、随つて、これを實施するものにして聰明と熟識とを具備してゐるかぎり、教育のあらゆる方面に適用することが出来るものである。併しながら、改めていふまでもなく、教育の先動力にも後動力にも、幾多の差異があり、教育の方面や材料にも亦幾多の種類があるために其の間自ら制限が生ずるのは止むを得ないことである。以下この點を略述して實施上の参考に供することとする。

第一に、教育の後動力即ち被教育者の創造性の本質及び發達の程度から制限を受ける。既に述べたところから見て明かなやうに、狭い意味の創造教育法は、被教育者の心身が自律的に思索行動することが出来るやうになつた時に於て、即ち廣義の學習の動機が充實し、自覺的目的々に教育を受け、自學自修自動が可能になつた時に於てのみ、始めて十分に適用することが出来るのである。そして斯くの如き心身の状態は、實は青年期に於て漸く到達するものである。されば、創造教育法を或る程度まで十分に適用して効果を擧げ得るのは尋常小學校の上級からである。否たとひ

小學校の上級生と雖も、被教育者の個性にはより多く自律的のもの、より多く他律的のものとの別があるから、彼等の凡てに對して劃一的にこれを適用することは出来ない。そして個性の差異といふことを更に嚴密にいへば創造性の本質の差異といふことである。随つて、創造教育法の適用は、既に一言したところの創造性の本質―種類方面の差異からも制限を受ける譯である。個性の差異以外、男女の性別に依つても亦適用上に制限を受けることはいふまでもない。

第二に、教育の主動力即ち教育者の創造性の本質、發達の程度及び其の教育的活用の巧拙から制限を受ける。被教育者が百人百異であると同様に教育者も亦百人百異である。其の創造性の本質に於て異なるばかりでなく、其の發達の程度に於ても異り、更に其れを教育法に活用する巧拙に於ても亦異なるのである。これを具體的にいへば、本來知的創造性が卓越し、且其れが發達の最も旺盛な時期にあり、而かも其れを活用することが巧妙な教育者が創造教育を行ふ場合と、技能的創造性が卓越してはゐるが、而かも其れは既に進歩期を通過して下り坂になり、且其れの活用法の拙劣な教育者が創造教育を行ふ場合とは、其の效果に於てかなり大きな差異を生ずるが如き即ちこれである。

第三に、教育作用の方面の差異から制限を受ける。即ち心育・體育・技育の差又は眞育・善育・美育・信育の差等に從つて、この方法はそれ〴〵適用上の制限を受けるのである。そして最も容易くこれを適用し得るものは私の所謂技育であり、最も困難と危険とを伴ふものは私の所謂善育及び體育である。

第四に、材料即ち教科の性質の差異から制限を受ける。これは前項から見て明かなことであるが、綴方・書方・圖畫・

裁縫・理科・算術・讀方・修身等の教科には適用の餘地が比較的が多いが地理や歴史や體操なきには比較的に少い。

(二)被教育者の本性を理會せよ。既に幾度も反覆力説したやうに、私の創造本位の教育観に従へば教育の主動力は所謂被教育者の創造性であり、随つて教育の効果は主として被教育者の創造性を如何程有効に發動させるか否かに依存するものである。然らば如何にすれば被教育者の創造性を最も有効に發動させることが出来るであらうか。勿論これに對する答解は種々あり得るが何よりも必要なことは、教育者の本性を出来るだけ正確に且詳細に理會することであるとする點に於ては何人も異存がないこと、思ふ。少くとも私から見れば、教育者が被教育者に接する―被教育者に教育を行ふ前に、彼等の本性を出来るだけ正確詳細に知るといふことは、教育者が實地教育を行ふ際の第一の責任でなくてはならない。この意味に於て、新學年に際して受持の變るもの、又は新任のために受持が新しくなつたり受持が變つたりするものは、何よりも先に新しい受持兒童の本性を理會することに努めなくてはならない。殊に新入兒童の受持となるものは、豫め被教育者の家族について綿密な個性調査を行はなくてはならない。但し、今日の如く教育者が不足であり、且學年末と學年始との間の至つて短い(私は學年末休業は少くとも二週間以上でなくてはならないと思ふものである。)制度の下乃至地方の如く學年末乃至學年始に於ける轉任の頻繁にして且唐突に行はれる慣習の中にあつては、遺憾ながら私のこの要求は容易に達成されない。随つて幸にして若しも校長が學級を擔任せず且轉任しない場合には、校長が新入生の個性調査の任に當るべきである。不幸にしてそれさへも出来ない時には、萬止むを得ないから、兒童入學後の一學期間に於て、受持教師が(一部でないかぎり)個性調査をなすべき極である。

端にいへば尋常一年の受持教師は其の他の仕事を犠牲にしてもよいから個性調査に力を注がなくてはならない。この意味に於ても私は尋常一年の二部教授の惡弊を排斥せずには居られない。

尙この點について一言すべきは、茲に謂ふ所の個性調査は在來乃至今日一般の小學校に於て普通に行はれる抽象的な平面的なそして中心のないものではなくて、具象的な立體的なそして中心のあるものであるべきことである。換言すれば、兒童の創造性の本質及び其れの發達を阻害する要素の有無及びその性質即ち通俗的にいへば長所と短所とを明かにすることを中心點とするものでなくてはならないといふことである。随つて教育者は、有効な個性調査をすることはかなり困難なことであるのを忘れてはならない。但し、この點は既に前文方法概説の項下に論述して置いたから茲には單にこれだけに止めて置く。

(三)創造性發動の機會を多くせよ。既に一言したやうに、創造性の發動即ち創造の一條件―外的條件として「機會」といふものが必要である。如何程卓越した創造性を具へ、如何程強烈な創造の要求が動いてゐても、これらに適した機會を缺く時には其の事實化は不可能であることは、所謂適所を得ないためにあたら顯才が寶の持ち腐れをするといふことが多いことに徴しても明かなことである。随つて創造教育を行ふに際してもこの點に注意し、被教育者を出来るだけ種々雑多な境遇に置いて、其の創造性の發動及び本質的發達の機會を多くするやうにしなくてはならない。殊に被教育者の個性が明かにならない新入學生乃至幼學年生に於てさうである。蓋し、長く一定の境遇に置く時には被教育者は只其の個性の或る一面をしか現さないと共に性能はこれを使用しない時には退化するのが普通だから

である。

然らば、如何にすれば、いふ所の創造性發動發達の機会を多くすることが出来るであらうか。これを具象的にいへば、席次、學校の役員（級長當番等の）、學級の編制（一學年を多學級に分つ場合）、時間割、教室の位置、受持教師等を時時變更することをはじめとして、新しい經驗を出来るだけ多くさせるやうにすることが必要である。但し、これらの變更には勿論確乎たる根據——理論的及び實際的根據——がなくてはならないことは改めていふまでもない。

但し、この點に聯關して一言すべきは、創造性の發動は突發的なものが多いが故に、その發動の機会を多くするといふことには、創造性が突發的に發動した場合にはこれを十分に利用するといふことをも含めなくてはならないといふことである。たとへば、讀方の時間に地震が起つた際に子供の心は讀方の教材よりも地震について深い注意を拂つてゐる時には、讀方の教授を中止して地震について話すとか、算術の時間に雀が教場に飛び込んで来た場合に雀を教材に取り入れるといふが如き即ちこれである。

**（四）創造性の發動發達に必要な設備をせよ。** 創造性の發動發達に必要な外的條件の一つは設備機關である。蓋し、たとひ如何程卓越した創造性を具へ、如何程強烈な創造の要求が動き、更にたとひ如何程好適した機會に遭遇しても、これらに場所と素材とを提供する設備機關を缺く時には、完全な創造は仕遂げられないのである。これを被教育者の立場から見ると、被教育者が創造性の發達に最も必要な自律的學習法に依らうとしても、其れに必要な設備機關たとへば圖書室自習室とか學校園とか理化學實驗室とか手工場とか裁縫室とか刺繍室とか兒童生徒用の樂

器體操用具とかいふものが十分に備はつてゐなければ、目的を貫徹することが出来ないのである。隨つて創造教育を行はうとするものは、それらの設備を完備するやうにしなければならない。但し、設備は何處までも創造の外的條件であり第一義的要素であるから、これと共に創造性其のものゝ涵養を先にし、これらの設備機關を十分に活用し利用し得るやうな實力を充實させ、更に、これが活用法利用法をも教示指導するやうにしなければならない。尙これと同様の意味に於て創造性が相當に發達した被教育者に適切な自習用の辭書や參考書を携帯させ且必要に応じてこれを有効に利用させることも亦必要である。然るに、今日一般の學校に於ては、被教育者の携帯品には極めて嚴密な制限を附し、所定の學用品以外は一冊の雜誌も一本の鉛筆も一冊の手帳も持たしめないが、これは洵に心外のことである。勿論、これは或る見地即ち訓練といふ見地から見れば必ずしも全然不當なやり口と評することは出来ないが、自律性が或る程度まで發達したものに對してもこの態度を取することは、私の斷然賛成し得ないことである。少くとも創造教育を行はうとするものは、斯くの如き弊害を打破して、出来るだけ被教育者の創造性發動の機会を多からしめると共にその効果を大ならしめるやうにしなければならない。

**（五）小成功を推稱激勵せよ。** 凡そ苟くも創造性の發達を念とするものは、兒童の工夫考案を尊重すべきは改めていふまでもないが、併しながら教育期にあるものは、たとひ大學生と雖も、特殊の例外者は別として、一般被教育者の工夫考案即ち創造は、教育者の眼から見れば乃至客觀的に見れば左程推稱すべきものではない。況んや小學兒童の創造に於ては、殆ど取るに足らぬものゝみである。併しながら教育者たるものは、殆ど客觀的價値なき創造が壘



積した結果遂に偉大なる創造となること、及び客觀的には無價値に近いやうな創造も兒童自身にとつては極めて價値あるものであり、随つて、教育者としてはされ程小さな創造—小成功をも重大視するばかりでなく更にこれを推稱激勵し、斯くして彼等の創造に對する興味と要求とを強烈にし、次第に彼等をして大きな成功をさせるやうに導いて行かなくてはならない。但し、この點に關して注意すべきことは、推稱は過褒となり、随つて激勵とはならないで、却つて彼等をして慢心せしめるやうになることがないやうに適切な様式を以て表白することが必要だといふことである。尙この點については項を改めて幾分詳細に説述することとする。

(六)被教育者をして冒險的ならしめ且失敗を責めるな。凡そ可能性を事實化する試みはすべて廣義の冒險であり、随つて極言すれば、人生そのものが冒險の過程であるといはなくてはならない。況んや狹義の創造の如きは只冒險によつてのみ成し遂げられるといつてもよい程である。然るに、創造教育はこの創造を究極目的とし、被教育者の創造性の可能を事實化することを主眼とするものであるから、被教育者の冒險を獎勵すべきものであることは改めていふまでもない。この意味に於て、創造教育は所謂「試錯法」といふやうな方法に多分の共鳴を感じるものである。併しながら、この點に關して注意すべきは、冒險には其の本性上失敗が伴ふことが多く随つて冒險を獎勵する以上必ず其れに伴ふ失敗を責めてはならないといふことである。勿論、件の失敗が最善を盡した上の失敗ではなくて用意周到でありさへすれば豫見し且豫防し得る底の缺陷がある手續上の失敗であれば、適當な注意を與へ、時に依つては非難攻撃を加へても差支へはないが、さうでない時には出来るだけ寛宏な心で兒童に對し、決して冒險心を抑壓

滅殺するやうなことがないやうにしないでなければならない。要するに、創造教育に於ては叱るより褒めることを主としなくてはならない。

尙この意味に於て次のやうな言葉は被教育に對して使用してはならない。「出来もしないくせに」「失敗するといけない」「あぶないからお止し」「餘計なことをするな」「子供のくせに生意氣な」「出過ぎたことばかりしてゐる」「おまへのやうなものに出来るもんか。」

(七)被教育者をして自暴自棄に陥らしめるな。創造教育の直接目的は一切の被教育者をして何等かの點に於て獨自にして優秀な人格たらしめることであり、随つて創造教育の戒飭は只の一人も落伍者を出さないやうにすることである。この意味に於て、創造教育を行はうとする教育者は、我が教へ子の只一人をも文字通の低能者であると思つてはならない。勿論、低能兒を低能兒として理會し、且これに對して適切な取扱をすることは必要であるが、低能兒自身をして低能兒と思はしめ、其の友人にも低能兒と思はしめたり低能兒扱ひにさせたりしてはならない。蓋し斯くの如き取扱をする結果は、彼等をして自暴自棄に陥らしめ、随つて彼等の創造性の發達を阻害するに至るからである。創造教育を行はうとするものは、宜しく創造教育の眞意義を理會すると共に、凡ての被教育者は何れも何等かの意味乃至何等かの點で獨自にして優秀な素質の稟有者であることを銘記し、在來乃至現在に於ては如何程素質の低劣な被教育者をも文字通の低能扱ひにするやうなことなく、其の最も長所とする所即ち創造性の本質を明かにし、且これを同級生の面前に於て推稱することによつて當人にも友人にも理會せしめ、常に一道の光明を認めて學業に従

ふやうにしないでならぬ。そしてあらゆる機會に彼等の長所を推稱し激勵することに依つて益々彼等の希望と信念を増大するやうにしないでならぬ。この意味に於て、私は低能級とか低能組とかと特別組織特別取扱をすることに賛成することは出来ない。

但し、この注意はひとり所謂低能児に對する場合に於てのみ必要ではなくて、一切の被教育者に對する時にも必要である。即ち普通児をして平凡無爲の人間と思ひ込ませず、常に「彼も人なり我も人なり」の覺悟を持たしめ、優等児をして「お山の大将おれ一人」の自惚を打破し、優秀者は他にも多數にゐることを理會せしめて益々奮發させるやうに心掛けなくてはならない。就中最も大切なことは、所謂低能児に對する場合と同じく、彼等をして自暴自棄に陥らしめないやうにすることである。それがためには、彼等に對する心事態度に注意すべきは勿論であるが、特に彼等に對する言葉に注意しなくてはならない。即ち次のやうな被教育者の價値の全稱否定を意味する言葉は絶対に使用しないやうにしないでならぬ。——「お前は馬鹿だ」「お前は駄目だ」「くだらないやつだ」「お前は何にも出来ない」「何にも役に立たない」「悪いことばかりしてゐる」「くだらないことばかりする子だ」「本當にいけない子だ」「全く成つてゐない」「どうにもしようのない人間だ」「低能児」「阿呆」「出来損ひ」「どうにもかうにもしようのない奴だ」。

(八)被教育者の質問を重大視し歓迎し且必ずこれに答へよ。子供は本來非常に多くの疑問を持ち且質問好きなものである。而かも其の疑問の發生は刹那的突發的であつて、其の發生した時に解答を與へないと不知不識の間に消滅して仕舞ふものであると共に、一旦其の疑問が自覺的になり客觀化されると即ち眞面目な質問となると、必ず

何等かの解答を得ない中は執念深く子供の精神を支配してその全體の平衡を破りその本質、發達即ち創造性の助長を阻害するものであり、例に適切な解答を得れば創造性を助長するものである。随つて、創造教育を行はうとするものは、出来るだけ子供は勿論あらゆる被教育者の質問を重大視し、歡んで彼等の質問に對し、且あらゆる質問に對して必ず適切な解答を與へるやうにするばかりでなく、更に被教育者が進んで質問するやうな態度や教育法を以て彼等に對するやうにしなくてはならない。但し、質問が質問者及び他の被教育者に對して害になるやうな性質のものであつた場合と雖も無下にこれを叱責嘲弄冷笑して質問を厭ふやうにさせることなく、質問者自ら質問の不可なる所以を悟るやうに取扱ふことが必要である。尙解答は教師自ら即座に與へることを本體とするが、質問の性質によつては他の被教育者にさせることもよいし、或は方法を指導して質問者自ら解答を見出すやうにする（これは餘りに卑近や質問や卓越した能力と旺盛な研究心を有するもの、又は上級生なごの場合に於て特にさうである）こともよいし、更に即座でなくて一定の時間を経過した後に行ふことが適切な場合もないではない。要は、質問者をして何等かの形及び方法で適切な解答を獲得せしめさへすればよいのである。更に、質問は一間づゝ提出させ一間づゝ解答を與へるやうにすることが必要であるのは改めていふまでもない。最後に、一定の時間を設けて被教育者に質問させることも必要であるが、さういふ質問には虚偽のもの即ち被教育者が知つてゐることを問ふとか又は本當に知らうと要求することでないことを質問するとかいふやうな弊害を伴生しがちであるが故に、創造教育に於ては隨時隨意の質問を重大視し如何なる時と所とに於ても教育上價値ある質問に對しては必ず適切な解答を與へることを本旨とするのである。

私のこの要求は、一見極めて簡単なやうで實は甚だしく困難なことである。然り、これは只創造教育の眞精神を理會する聰明とこれを十分に實行しようとする熱誠とを有する他に、被教育者を敬愛する精神と豊富な學識と自由な應用力を併せ兼ねた教育者にしてはじめて爲し遂げることの出来る難事業である。事實、一般平凡な教育者は大抵な場合被教育者の質問を厭忌し、若し質問が起つた場合には、言を左右に托して解答を迴避するかごまかしの解答を與へるか更に甚だしきは質問者を叱責するのが實際である。我が創造教育が旺に喋々されながら容易く其の効果を擧げ得ないのは遺憾ながら故あることといはなくてはならない。

以上の意味に於て、私は教育者が次のやうな言葉を被教育者に對して使用するのを非難する。曰く、「子供のくせに餘計なことばかり聞いて」「そんなことは上の級になると教はることだから今聞かなくてもよい」「さううるさく聞くものぢやない」「何故そんな馬鹿なことを訊くか」「そんなことは理科の時間に訊きなさい」「それはこの前に教へたぢやないか」。

尙被教育者自身の疑問と教育者よりの質問とを論ぜず、解答は出来るだけ十分な時間に於て落ちついて試みさすやうにすべきである。蓋し、反覆説述したやうに、創造性の十分な發動は大抵の場合生命に餘裕がある時に於てのみ可能だからである。

(九)「問」を尊べ。「問が延びる」とか「問が抜けてゐる」とかいふことは、一般には悪いことと思はれてゐるが、我が創造教育では或る意味に於て「問が抜ける」ことを必要とする。蓋し、創造には一定の時間を要するからである。

言ひ換へれば、表面に現はれた心身の活動が緊張し通してゐることは必ずしも創造性を健全に發動し發達させる所以ではないからである。表面から見れば問が抜けてゐるやうに思はれながら内面に於て火の出るやうな緊張充實の生活を被教育者に營ましめることが、創造教育の秘訣だからである。この意味に於て、創造教育は子供が文を綴つたり、算術の解答を考へたり、應用畫自由畫の畫題を考案したり、見聞しないものを想像したり、理科學實驗の結果を解釋したりする際に、目を瞑つたり、外見をしたり、机の上を見つめてゐたり、頬杖をついてゐたりすることをとがめない。この意味に於て、創造教育は子供が遠足や校外教授の際に（時には學校の往復の際にすら）或る程度の道草を食ふことをとがめない。この意味に於て、創造教育は單に出來上り（答辯や筆答や工夫や其の他）が速いことを推稱すべきこととはしない。この意味に於て、創造教育に於ては、「何を愚圖々々してゐる」「さつさとやれ」「おそくていかん」「のろまはきらひだ」「何故わき見をしてゐます」「ぼかんとしてゐるのは誰だ」といふやうな言葉を用ひる時は餘程の注意を要するのである。但し、創造教育の尙ぶ「問」は勿論必要な程度の「問」であつて、文字通に「問」が抜けてゐるのを歡ぶものではない。要は、創造性の發動は副意識現象に屬することが多いがために、副意識的活動の時期としての「問」を重大視するのである。そしてこの點から見れば、今日の教育はあまりに形式的表面的に緊張し過ぎてゐる。兒童が一寸でも傍目や瞑目や空想をしてゐることさへも出來ない程周章だしく、忙しく、張り詰めてゐる。創造性の發達が不十分なのは所以あることである。

(十)空想乃至想像を重大視せよ。既に反覆したやうに、凡そ創造性の發動と發達とは空想や想像の力に俟つ

ことが多いものである。否、實は空想想像其のものが一種の創造——主觀的創造である。随つて、創造教育を行ふ場合に於ては、これらの心作用の意義を明かにし、其の價値を重大視し、且出來るだけこれを有効に發動させ利用することが必要である。然るに實際教育家の中には私のこの要求に反するものが少くない。例へば、兒童が自分の想像や空想を話すと直ぐに「出だらめをいつちやいかん！」といふやうなことをいつて叱責するが如きは其の一例——あまりに多く見聞するところの一例である。心ある教育者は斷じてこの誤謬に陥つてはならない。尙此の點に關して特に注意すべきは、兒童が空想力想像力を働かした結果自覺なしに虚言を吐くことがあるといふことである。されば教育者は兒童の虚言が何であるか、即ち、それが悪い動機から來る倫理的のものであるか或は嚴密な意味に於ける動機を具へてゐない心理的のものであるかを明かにし、然る後にこれに適した方途を講ずるやうにし、虚言を吐いたからといつて直ちに叱責するやうなことがないやうにしないでならない。否單に斯くの如き消極的態度に出るばかりでなく、更に一步を進めて空想力や想像力の健全な發達をはかるやうにしないでならない。そしてそれがためには、歴史とか地理とか綴り方とか圖畫とか読み方とか手工とかいふやうな特にこの性能に關係の密接な教科の際に力を用ゐることは勿論、更に食事後や其の他特別の時間に於て空想談や想像談をさせるといふやうなことも必要である。勿論この場合に於ては、教育者が嚴密な批判を下して、有害なものを排除するやうに注意すべきことは改めていふまでもなす。

(十一) 備忘録を携帯せしめよ。創造教育に於ては、創造性の發動を重視するものであり、そして創造性の發動は甚だ突發的飛躍的であり、随つて其の發動の發端に於て適宜に培ひ灌ぐことがないと、永遠に消滅し枯渇するのが常であることは反覆繰述したところである。されば、創造教育に於ては、この點に注意し、一旦開始した創造性の發動をして無意義に歸せしめないやうにしないでならない。そしてこれがために必要な一つの手段は、被教育者をして常に備忘録を携帯せしめ、且これを有効に使用せしめることである。但し、備忘録は學校用及び家庭用に別ち、學校用のものは常に机上又は机中に置き、隨時必要を感じた事や教授されたことや思ひ出したことなきを記さしめるものであり、家庭用は學校以外に於て必要を感じたことを記さしめるものである。但し、學校用を使用する場合には読み方帳とか算術帳とか綴り帳とかに筆記することと重複させないやうにすること、教授の進行や他人の學習やを妨げないやうにせしめること、學校用家庭用共に時々檢閲して必要な處置を施すこと、帳簿は使用携帯に便利なるものを選ぶこと、大凡尋常三年以上のものに使用せしめることなきに注意しなくてはならない。

(十二) 評價は正確にせよ。凡そ客觀的評價が許されるのは其れが動機に於て純真であり、内容に於て正確である場合に於てのみであつて、この條件を完備しない評價は罪惡であり有害である。そしてこれは教育者が被教育者の價値——學業や品行を評價する場合に於ても同様である。随つて教育者は常に動機を純真にし、客觀的妥當性のある價値標準に依つて正確な評價を下すやうにしないでならない。然るに不誠實な教育者の中には、不精のために自作文の成績や考査の成績なきに對して文字通に出鱈目な評語評點を附するものが少くない。或は、評價に要する時間が長きに失するため其の間に標準が變更して不當な評價を下すやうな場合も少くない。そしてこれは特殊な時間に於て

行ふ評價に伴ふ弊害であるから、教育者が聰明であり誠實でありさへすれば大抵防ぎ得るものであるが、平常不用意に行ふ評價に伴ふ弊害は容易に防ぎ得ないのである。たとへば、児童が圖畫なら圖畫を畫いて「先生これでよござんすか？」とたづねた場合に忙しい時にはそれを見もしないで、少くとも一瞥しただけで「あ、よしよし、うまい」などといふが如きこれである。如何に優秀卓抜な教育者と雖も見ない繪を評價することは不可能な筈なのに、かういふ輕卒な評價が行はれることは決して少いことではない。眞に創造教育を行はうとするものは、よろしくこの種の弊害を一掃しなくてはならない。

(十三) 評價は適切なれ。併しながら評價を行ふに際して必要な注意はこれだけでは足りない。即ちこれと共に適切といふことが大切である。ひとり教育に於てばかりでなく、凡そ價值を評價する際に標準とすべきものに二つある。一般的形式的客觀的のものとする特殊的主觀的のものとする。一つは教育者の描ける理想や一般児童の力量や學級全體などの立場からの評價であり、一つは被教育者其のものゝ性能や努力の立場からの評價である。教育少くとも普通教育は一般的陶冶を主眼とするものであるから、第一の標準から評價を下すことが必要なのはいふまでもないが、併しながら反覆繰述したやうに、一般的陶冶の究極目的は被教育者独自の創造性の十分な發達といふことに存するかぎり、これと共に後者を併用しなくてはならない。

これを具體的にいへば、被教育者の成績を褒める際に「大層よい出来だ」といつただけでは足りない。その他に「三年生としてはよい出来だ」とか「十歳の子供としてはよい出来だ」とか或は「佐藤さんとしてはよい出来だ」とかい

つてはじめて適切な評價となる。或は式日に尋常一年から六年乃至高等科まで一つの講堂に集つた場合に「二年の子供が騒いだ時にどうしたならばよいか。普通の校長は「尋常一二年生は何故そんなに騒がしいのか、大きな人達は皆靜かにしてゐるぢやあないか」といふ。併しこれは適切な評價ではない。宜しく「尋常一二年としては騒がしい」とか「二年が騒しいために他の靜かにしてゐる人の邪魔になる」とか「この位のことは一二年生でも我慢されない筈がな」とかといふべきである。さうでなければ「尋常一二年が騒がしくしてゐるのに何故大きな人達が靜かにしてゐるか」といふ反駁も論理的には起り得るからである。同様の理窟で「あなたの兄さんはよい子だのに何故あなたはいけな」といふやうな評價も適切ではない。

これを他面から見れば、書き方や圖畫や綴り方や裁縫などのやうに斷えず成績品を評價する機會のあるものは、一方に於ては客觀的標準から公平な嚴正な評價を下すと共に、他方に於ては被教育者個々の性能と努力とに適した評價を下すことも必要である。即ち、これまでいつも乙の成績しか取ることの出来なかつた子が奮發勉勵した結果甲を取つたといふ場合と、いつも甲上を取つてゐた子が怠惰の結果甲になつたといふ場合とは、二人の甲は同一の甲でも前者には賞讃の辭を呈し後者には非難の辭を呈しなくてはならぬ。或はいつも書き方で下手に書く或る文字が或る時特にうまく書けたやうな場合には、全體の評價が乙であり、且其の字が他の子供たちより拙くとも二重圈點を付ける必要がある。これはひとり一科の成績に關する評價ばかりではなくて、學業全體に關する評價即ち學年末の成績の評價に於てもさうである。この見地から、私は進級卒業の際に於ける賞狀賞品は本來の優等生のみと與ふべ

きものではなくて、本来凡庸の素質を持ち不良な環境にありながら努力の結果格段な進歩を示したものにも與ふべきものである。極言すれば、素質境遇が良好であるにも係らず怠惰慢心のため成績が格段に劣つたものは、たとひ全級中最高地位又は優等の地位を占めるやうな場合に於ても推賞どころか寧ろ訓戒激勵すべきものである。

この點に聯關して注意すべきことが尙一つある。それは團體的評價を下す際には周匝なる用意が必要だといふことである。蓋し、團體的評價は正確と適切とを缺き勝ちであり、随つて評價の効果を減殺し、更に甚だしきは團體のために罪なくして非難せられ、功なくして賞讃され、自ら兒童の良心を麻痺させるものを生ずるからである。たとへば教室の左側の或る兒童が悪戯をしてゐる際に「左側がいけない」と難する時とか、或る日數名の當番中の一人が非常に働いた時に「昨日のお當番は大さう働きました」と賞するとかいふが如きは即ちこれである。教育者はよろしく綿密な吟味をして眞に賞すべきを賞し、眞に難すべきを難するが如き態度に出なくてはならない。但し斯くいへばとて、私は、團體の連帶責任又は全體的價值といふことを全然蔑視するものではない。要は個の價值を重大視し、個的評價を適切ならしめることが必要だといふのみである。

(十四) 教育者が缺勤する時又は學校學級と一時離れる時に注意せよ。これまで幾度も反覆力説したやうに、私の創造教育は最も高い意味に於ける自律主義であり、随つて教育の成否は受持教師の不在中に最もよく現れるものである。教育者が自分が出勤して熱心に教育に従事してゐる時に子供の成績(學業品行共)がよいのを見て自分の教へ子がよい教へ子だと思つたり、自方の教育が成果ををさめてゐると思つたりしてはならない。眞に心ある教育者は、自分の在不在に依つて教へ子が態度心持を二三にするやうなことがないやうに教育すると共に、止むなく缺勤したり或は他の教師に代つて出て貰つたりする場合には、子供にも他の教師にも豫め注意を拂つて平素の効果を減殺するやうなことがないやうにするばかりか、更に他の教師から自分が不在中の教へ子の状態を具さに聞き取り、更に公平率直な批評を乞うて教育の参考にするといふやうでなくてはならない。

(十五) 不揃を誇りとせよ。既に述べたやうに、普通教育は一般的陶冶乃至通性の啓發を直接の使命とするものであるから、はじめから狭い意味の個性教育や創造教育に偏してはならない。併しながら、件の一般的陶冶乃至通性の啓發はごこまでも直接目的であつて究極目的ではないかぎり、それを行ふ際には機會ある毎に創造性乃至よい意味の個性の助長に力を注がなくてはならない。この意味に於て、教育者は、自分の受持の子供が描つてゐることを誇りとするよりも、寧ろ揃つてゐないことを誇りとするやうでなくてはならない。入學當時の子供は個性(其の程度に於て)の極めて鮮かなものである。それを無くさないやうにしながら而も有効な一般性乃至通性の陶冶啓發をなし得ることが教育者の誇りでなくてはならない。言ひ換へれば、教へ子全體が夫々獨自にして優秀な個性を具へてゐながら、而も其れらの凡てが水平線以上であることを以て教育者は自己の誇りとしなくてはならない。この意味に於て、教育者が自己の好む所又は長とする所を最も十分に教育上に活用することは差支ないが、教へ子の凡てを自己の好む所又は長とするところに傾けることは斷じて排すべきことである。

(十六) 熱心は(形式的量的でなくて)内容的質的であれ。熱心は價值ある教育者の一大資格であり、教育

の効果をさめる一大動力であるのはいふまでもないが、件の熱心にも幾多の種類があることを忘れてはならない。そして我が創造教育から見て價值ある熱心は形式的量的なものではなくて内容的質的なものでなくてはならない。たとへば放課時間に子供を休ませないで教授をつづけたり、所謂劣等生を正課後おそくまで残して置いて補充教授をしたり、記念日とか祝祭日とかに授業をしたり、豫定より三分五分早く教授の段落がついた場合に強ひて聯絡のない課題をやらしたりするが如きは、眞に價值ある熱心といふことは出来ない。そしてこれはひとり被教育者に直接交渉することのみに限ることではなくて教育者の生活の全體に關することである。即ち朝早く出勤して修業後遅くまで在校することや、教授の進度がはやいことや、教案を細かに書くことや、表簿の表紙の文字を丁寧に書くことや、調査物をはやく主任や校長の手許に差出すことが、必ずしも本當の熱心であるとはいへない。

(十七)兒童を受動的立場に立たしめるやうな教育法を用ゐる時には教師は出来るだけゆるくと其の歩武を進めるやうにすることが必要である。既に略言したやうに、創造性は受動的に發動することがある。たとへば、講演式示範式教式に於ける被教育者の創造活動が即ちそれである。この際に注意すべきは、教法の歩武を出来るだけ靜緩にすることである。何となれば、兒童が聞きながら、又模倣しながら創造するためには、心身の活動は少くとも一倍半だけ複雑となり、自らそれだけ多くの時間を要するからである。殊に創造性の發達の不十分な幼児の場合に於てさうである。これ私が反覆創造教育は「間」を尊ぶ教育であるとする所以に他ならない。

(十八)復習を重大視せよ。既に詳述したやうに、私の創造教育に於ては、教授過程上所謂豫備及び應用の段階

に該當する過程を重大視するものである。蓋し、創造教育に於ける所謂教授の目的は、被教育者をして自由に應用せしめることにあり、そして斯くの如き目的を達するためには、出来るだけ被教育者をして學習の動機を充實せしめると共に、出来るだけ自ら研究せしめることが必要だからである。然るに、實際教育家の態度を見るに、所謂豫習を重大視するものは少くないが應用を重大視するものは比較的少い。殊に私の最も遺憾とするのは、所謂復習の價值を全然理會し得ないものが餘りに多いことである。事實に於て、今日一般教育者の見る所では、復習といふものは方法的の教授段階ではなくて、偶然的のものである。即ち豫定よりも教授の進歩が速くて時間が餘つた場合とか、受持教師が缺席した場合とか、考査や試験の前とか、學年末とかいふ時にのみ行ふべきものだと考へてゐる。随つてこれらの復習には何等の方案も講ずることなしに型に入つた取扱方をするから、創造性の發達を助長するどころか寧ろ其れを阻害する場合が多いのである。創造教育を行はうとするものは宜しくこの病弊を打破しなくてはならない。即ち、復習を以て教授の必然的にして重要な一段階であることを理會し、これがために十分に時間を割くと共に、これの取扱に就いても適切有效な方案を講じ、所謂應用と相俟つて、教授したものを確實に兒童のものたらしめ、斷片的なものを全體化し系統化せしめることによつて、自由に應用し、自在に活用することが出来るやうにしなくてはならない。そしてこの目的を達するためには、應用の方法に根本的の改造を加へなくてはならない。然らば謂ふ所の根本的改造とは何であるか。一言にすれば「創造化」といふことが其の中心特色である。

これを詳言するに、復習の創造化といふことには大凡二つの意義がある。即ち一つは全體化といふことであり、一

つは應用化といふことである。謂ふ所の全體化といふことは、復習する際には新教授の際の材料と同一のものを用ゐるばかりでなく、更にこれに一步を進めて、それと聯關する材料を出来るだけ豊富に蒐集することである。蓋し、斯くしてのみ眞に活知識活技たらしめることが出来るからである。次に復習の順序は新教授の順序と逆行少くとも相違するものでなくてはならない。これを具體的にいへば、新教授の際に歸納法によつたものは復習の際には演繹法によるとか、加法の復習に減法を用ゐるとか、要するに復習を機械的ならしめず、被教育者の創造性を發動させることによつて十分に彼等のものたらしめるやうにすることが必要である。

最後に一言すべきは、生命は持續的であるが故に、其の發達は必ず既得の性能を根本動力とすべきものであるといふ意味に於て、學習そのものが一種の復習であるが故に、教育に於てはこれを十分に尊重しなくてはならないといふことである。

## 第八章 創造本位教育観の價值

私は、以上數章に亘つて一通我が創造本位教育観の意義を明かにしたから、最後に其の價值を明かにして本書の結論とする。但し、大まかにいへば、意義はやがて價值であるが故に、意義を詳述した上は特に價值について説明を試みる必要がないのである。況んや本書第一篇第三章に於て試みた創造教育提唱の根據は、これを他面より見ればやがて創造教育の價值であるに於てをや。随つて茲には單に讀者の理會を便にするために、重複をも省みず、極めて簡單に併しながら幾分系統的に上記の趣旨を再論しようと思ふ。

さて、凡そ學說の價值を明かにするにはこれを二方面から見なくてはならない。一つは理論的方面からであり、一つは實際的方面からである。理論的方面から見た價值即ち理論的價值とは學說其自身の價值であり、實際的方面から見た價值即ち實際的價值とは學說の應用的價值である。然るに、教育に於ける學說は即ち教育學は本來一種の應用科學乃至實用科學であるが故に、其の理論的價值はやがて或る程度まで實際的價值でなくてはならない。即ち、教育學說は教育事象を説明すると共にこれを



規正してのみ、換言すれば教育の理論として価値あるばかりでなく、更に教育の本質的發達を促進することが出來てのみ、はじめて眞に価値ある教育學說といふことが出來るのである。

併しながら嚴密な見地から見れば、學說の価値は理論的価値が主でなくてはならない。蓋し、學說は、たとひ如何程密接に實際と結合したものでも結局實際とは別なものであり、随つて謂ふ所の實際的価値も單に可能的状態に於てのみ包含され其の十分な發揮は實際家の千差萬別な具體的努力に俟つべきものだからである。然り、學問は結局議論である。随つて、學問をして議論としての価値を完具させさへすれば學者としての使命は果されたもので、實際家がこれを實際に應用すると否とは學者の直接責任ではない。學者の責任は、只自己の研究する學問に依つて現象事實の意味と価値とを明かにすると共に、實際家をしてこれを實行し應用せしめる誘發力と實際家がこれを實行し應用する際に指導力となるものとを其の學說中に包含して置くといふことにある。然り、理論は實際の抽象であるかぎり、實際は理論に比して甚だしく廣汎豊富であるから、たとひ如何程精密な理論でも即ちたとひ如何程多くの可能的條件と如何程多くの可能的な工夫注意とを如何程精密周到に觀破し列舉しても、畢竟するにそれは實際に比して甚だしく狹隘單純であると共に、理論の實際に對する暗示は可能的なものであり、更に人生は創造的進化であつて新しい事實が無限に斷えず現出するものであるが故に、こ

れを實際化しようとする場合には種々不都合な點が生起するものである。これ、學說が實際家から迂遠無力の非難を受ける所以である。併しながら、これがために學說を無價值視し無用視するのは、勿論甚だしい謬見である。蓋し、學說は文字通に實際の抽象又は一部分ではなく、寧ろ實際と相表裏し、實際の意義と価値とを立證すると共に、實際をして進歩發達せしめる一大動力だからである。随つて、實際を離れて理論がないと云ふことが眞實であるならば、理論を離れて實際がないといふことも亦同様に眞實である。この意味に於て、私は、理論と實際との何れの一面をも偏重するものではないが、自己が理論家の立場であるだけ理論の価値を尊重するものであるが、而かも理論の価値の具體化も其の進歩發達も、等しく實際の力に俟つものであることを認めるに吝かなものではない。そして以上の見解は教育の理論と實際との關係に於ても同様である。否、教育に於ては、理論が特に重大な地位を占めるのである。蓋し、教育の實際は極めて複雑な事象であると共に自覺的な事象だからである。然らば、教育の學說が理論的価値を具備するには如何なる條件を要するであらうか。

第一に、教育學說が理論としての価値を十分に具備するには教育の全體を規制し説明しなくてはならない。そしていふ所の教育の全體とは、普遍的方面と特殊的方面、永遠的方面と現實的方面、目的的理想的方面と手段的方法的方面、價值的方面と事實的方面とを包括統一したものである。そしてこの

教育學説に於て教育の全體又は全體としての教育の規制的方面に該當するものはやがて教育哲學であり、説明的方面に該當するものはやがて教育科學である。随つて全き意味に於ける教育學説は教育哲學と教育科學とを不可缺の二大要素二大方面とするものでなくてはならない。然らば、本書に盛られた私の創造本位の教育観は、果してこの條件を完備してゐるであらうか。遺憾ながら、私はこの間に對するに全き肯定的解答を以てすることが出来ない。蓋し、私の創造本位の教育観は、本書に於て表現された限りに於ては、上記規範的方面と説明的方面とが明白且適當に區分されないで混在してゐるからである。別言すれば、創造本位の教育観は、十分な意味に於ける教育哲學でもないと共に十分な意味に於ける教育科學でもないからである。併しながら、これを以て全然理論的價值を缺如すると見るのは誤謬である。蓋し、私の教育観は、これに更に一段の論理化を施せば、教育哲學と教育科學とに二分する可能を包含してゐるからである。但し、嚴密な見地から見れば、本書に盛られた私の教育観は、何れかといへばより多く前者に近似する。只前者と異なる所は、前者が體系的であるのに對して非對系的であり、前者が哲學としての形式的條件を完備するのに對して其れを缺いてゐる點に存するのである。この意味に於て、創造本位の教育観は序文にも述べたやうに、教育の哲學的基礎を明かにするものであり、随つて又一種の哲學的教育観であるといはなくてはならない。これ、創造本位の教

育観に於ては、特殊の方面よりも普遍的方面、現實的方面よりも永遠的方面、手段的方法的方面よりも目的的理想的方面、事實的方面よりも價值的方面を主とし、更に説明よりも規制を重んずる所以である。然り、本書は畢竟するに、私の教育に對する要求理想信念を赤裸々に表白したものである。随つて、茲に本書の缺陷が存すると共にまた一個の特色も存するのである。

繰り返していふ。創造本位の教育観は何れかといへば哲學教育観であり、随つて其の一長所は教育の普遍的方面の解明にある。但し、これはこの教育観は單に教育の普遍原理としてのみ有價值であつて、特殊原理としては無價值であるといふのではない。少くとも要求としては、この教育観は教育の特殊原理としての價值を具備することを期圖してゐるからである。否これは決して單なる要求でなくて一個明白な事實である。蓋し、現代の我が教育の原理として最も適切妥當なものは我が創造本位の教育観を措いてはないからである。別言すれば、現代の我が國を救ふ教育観は我が創造本位の教育観を外にしてはないからである。この意味に於て、私は、創造本位の教育観は、普遍原理としての價值を具備すると共に特殊原理としての價值をも具備すると思ふものである。

翻つて思ふに、學説の理論的價值は、やがて或る程度までその實際的價值であることは、既に一言したところである。随つて創造本位の教育観が理論的價值を具備することはやがて或る程度の實際

的価値を具備することを意味するのである。否、この教育観が特殊原理としての価値を具備するといふことは取りも直さず實際的価値を具備することに他ならない。そして、この點は恐らく本書を精讀された讀者の何人も是認されることであらう。併しながら前にも一言したやうに、學說の實際的価値はこれを具體化して見なくては十分理會することが出来ないものであるのに、本書に發表した教育観は、まだ十分に具體化されてゐないから、私は茲にこの教育観の實際的価値を立證することは出来ない。随つてこれはこの教育観を理會した實際教育家諸氏の嚴密な檢證證明に待つて後決定しなくてはならない。只私は、この教育観は相當の實際的価値を可能的に具備してゐると信ずるものである。別言すれば、實際教育家がこの教育観を正確に理會すると共に、これを適切有効に教育の實際に應用すれば教育の實際を改造して其の本質的發達に資益することが出来ると信ずるものである。要は實際教育家の聰明と熱誠との如何にある。

以上、極めて簡單ながら、私の創造本位の教育観は不十分ではあるが一通の理論的価値及び實際的価値を併せ具へてゐることを明かにした。然るに世には、この教育観に對して種々の非難を加へるものがある。これらは何れもこの教育観を正確に理會しない結果であるから、敢て意とするに足らないが、序を以て左に簡單な論駁を試みることにする。但し、この教育観が創造を根本原理とすることに

對する非難は既に「教育の根本義」の章末に於て論駁して置いたから、茲にはこの點に關する非難は一切割愛することとする。

先づ第一に擧ぐべき非難は、創造本位の教育観は新説であるが故に價值なしとするものである。これを詳しくいへば凡そ教育のあらゆる新思潮と同様に創造本位の教育観なるものは、教育の歴史も實際も顧慮しないばかりでなく、兎角は我説に執し、極端に流れ、奇矯に傾き、誇張に偏し、徒に大聲叱呼し、徒に力説高調を事とし、更に空理空論を主として、何等實際教育の改造に役立たない中に次の新説に代られるが故に價值なしとするものである。この非難は、一見すれば洵に至當な非難のやうであるが決してさうではない。何となれば、これは創造本位の教育観其のもの、一、缺陷ではなくて、この教育観の取扱方に關する缺陷であり、創造本位の教育観全體の弱點ではなくてその一部の弱點だからである。少くとも私の創造本位の教育観はこの種の缺陷弱點を避けることに相當の戒心を用ゐることは本書の内容其のもの、一、證明するところである。私はこの非難に對して何等の論駁を試みることをもせず、只何處までもこの非難を避けるやうに注意するのみである。

但し、この非難中特に實際教育家諸氏に對して警告すべきことが一つある。それは、ひとり創造本位の教育観ばかりでなく、凡そ教育上の新學説は兎角空理空論に流れて何等顯著な實際的効果ををさ

めない中に他の新學說に代られがちであるといふことは、遺憾ながら在來の新學說に伴ふ共通惡習であり、随つて創造本位の教育観にも必ずしも其の憂ひが全然ないとはいへないから、苟くもこの教育観を是認する實際教育家は十分戒心してこの非難に該當しないやうにしないでならないといふことである。蓋し、新學說をして單なる空理空論に止らしめたり單なる一時の流行に終らしめたりするのは、畢竟するに、前述の如く實際教育家が聰明と熱誠とを缺くためだからである。

斯くいへばとて、私は勿論この點に關して教育學者は何等の責任をも負ふ必要がないとするものではない。否、私は寧ろこの點に關して順序上先づ第一に非難さるべきものは教育學者であるとするものである。實に教育學者の試みる新學說の提唱なり紹介なりに缺陷が存するためにこそ、換言すれば序文以下に於て反覆詳述したやうに、新學說の提唱又は紹介に必要な根據を持つことなくして、みだりに新學說を提唱したり紹介したりするためにこそ、それが單なる空理空論に止まつたり、單なる一時の流行に終つたりするのである。併しながら、たとひ學者が如何程確乎たる根據の上に立ち、如何程明白な自覺を持ち、如何程周密な戒心と嚴肅な態度とを以て新學說を提唱し紹介しても、更に件の新學說そのものが如何程卓越した價值を具有してゐても、これを實際化し具體化する實際教育家にして聰明と熱誠とを缺く時には、結局空理空論に止り、一時の流行に終つて了ふのである。何とな

れば、既に一言したやうに、教育學說は其のまゝでは理論であつて、其れをして實際的價值あらしめ、それをして實際的具體的價值ある理論たらしめるには、これを教育の實際に適切有効に應用することが必要であり、そして應用の任に當るべきものはいふまでもなく教育實際家だからである。換言すれば、教育實際家が新學說の眞相眞價を正確に理會し、其の長短を嚴正に區別評價し、更に短所を捨て長所を適切有効に教育の實際に應用することの出来る聰明と熱誠を兼具し、且これを十分に活用してのみ、新學說は單なる空理空論に止ることから免れ、單なる一時的流行に終ることから免れることが出来るからである。但し、嚴密な意義に於ては、凡そ學說はたとひ直接に實際に應用されなくとも決して單なる空理空論であるとか或は實際的價值が皆無であるとかいふことは出来ない。然り、凡そ如何なる學說思想でも、其れが幾分たりとも理會されれば必ず何等かの點で其の人の實際生活に影響を及ぼすものである。蓋し、理知と情意との間には極めて密接な關係があり、思想知識は實行の動力だからである。随つて教育の新學說に於ても、其れが實際教育家に理會された限りに於て、それは必ず其の教育者に、教育者としての人格乃至生活に何等かの影響を及ぼすものである。これを事實に徴するに、たとへば公民教育にしても少くとも公民教育の意義を正確に理會した教育者である限り、たとひ何等の積極的な又は具體的な方法を講じなくとも、必ず、不知不識の間に公民教育が教育の目

的とするものに近づきつゝあることは否むべくもない。更にこれを創造本位の教育観について見ても、教育者がこの説の本旨を幾分でも理會してゐるならば、即ち單に私の創造本位教育観の題句たる「凡ての被教育者をして獨自にして優秀な人間たらしめる」といふ目的觀の一部を理會しただけでも、少くとも其の理會が徹底的でありさへすれば、其の教育者が長い間不知不識裡に被教育者に與へる影響は斷じて尠少ではないのである。況んや教育學説に於ける目的原理の徹底的理會は、必ず何等かの形で其れに要する方法の考案を促すものであるかぎり、たとひ教育思想家乃至教育學者が文字通に原理のみを提供しても、少くとも其の原理が實際教育家に理會されさへすれば、必ず教育の實際に影響を與へるものである。然るに、私の創造本位の教育観は單に文字通の原理のみを提供するに止らないで、何等か其の原理を應用するに必要な方法をも併せて一通指示してゐるのである。随つて創造教育観が單なる空理空論であると難するのはたしかに不當な非難である。そして斯くの如き非難は、一つは難者が教育學説の實際的價值を批判する標準に關して謬見を有することに原因してゐるのである。これを詳言するに、彼等は教育學説の實際的價值を批判するに、教育學説其のものが可能的に所有する價值を十分に事實化しないで、只既に事實化されただけの一部分の價值を以て學説全體の價值とするといふことである。更に別言すれば、教育學説の實際的價值なるものは教育の實際家がこれを十分に應用した上でのみはじめて現れるものであるといふことを理會してゐないといふことである。論者はいふ。「我が教育界の所謂新思潮なる颶風の多くはいつも上空のみを吹き去つて實地教育の地上に餘り影響を與へない」と。併しながら教育の新思潮が上空のみを吹いて實地教育に影響しないのは、必ずしも教育思潮其のもの、本質的價值が皆無であるためではない。蓋し、既に一言したやうに、思想學説が實際に對して十分な影響を及ぼし得ないのは、思想學説に本質的價值がないためである場合以外、これを實地に應用するものが聰明と熱誠とを缺いたためであるといふ場合もあるからである。

これを要するに、在來我が國に於て提唱され紹介された教育上の新思潮が實地教育上に與へる影響が比較的に尠く教育の實際を改造する上に比較的、に役立たなかつたのは、(嚴密詳細に評價吟味すれば、案外に影響が大きく、案外に多く役立つてゐることと信ずるが)新學説其のもの、本質的價值が少いためか、提唱者紹介者たる學者思想家が聰明と熱誠とを缺いてゐるためか、實際教育家が新學説を十分教育の實際に應用する聰明と熱誠とを缺いてゐるためか、さうでなければ、これら三つの凡てか又は二つかのためであつた。そして苟くも學者思想家が提唱し紹介する新學説には、必ず何等かの本質的價值を有するものであると共に、學者思想家の任務は新學説其のもの、真相を明かにするに存するかぎり、教育學説の實際的價值は偏に實際教育家の聰明と熱誠とに依存するものである。然り、

實際教育家さへ聰明にして熱誠であるかぎり、たとひ學者が新學説を提唱し紹介する上に幾分缺如するところのものがあつても、否たとひ新學説そのものに幾分間然するところがあつてすらも、それを適切有効に實際教育上に應用しその缺陷を適切有効に匡補することが出来るのである。そしてこれは、我が創造本位教育觀の場合に於ても亦さうである。

私を以て見れば、創造本位の教育觀を肯認しこれに賛成する實際教育家がこれを實地教育に適用する上に缺陷があることは、遺憾ながら是認せざるを得ないのである。そしてこれは吾々提唱者に缺けるところがあるためであることはいふまでもないが、この學説を肯認しこの學説に賛成する實際教育家が、創造本位教育觀の本旨を十分に理會せざる中に輕々しくこれを實地に應用するか、又は實地に應用する上の工夫に缺けるところがあるためであることも亦否むべからざるところである。殊に創造本位の教育觀は最近漸く一部實際家の理會を得たばかりの新説であつて、其の理論に於てすら缺けるところがあるばかりでなく、更に、其の傾向が低劣な素質を稟有する教育者に怠惰の口實を與へる要素を伴ふがために、これが實際教育に應用される時には種々の弊害を生ずるのは、遺憾ながら今日に於ては萬止むを得ないことである。

以上の略述に依つて明かなやうに、教育學説の如き實際的應用的方面を其れの一面とするもの、實

際的價值は、只學者と實際家とが相互に提携し合つてのみはじめて其れの十分な發揮を見るものであるから、我が創造本位の教育觀に於てもそれが提唱者は出来るだけ慎重な態度を以て學説としての本質的價值を充實し且其れを十分に闡明することに力を注ぐと共に、實際家も亦同様に出来るだけ慎重な態度を以て其れの理論としての真相眞價を正確に理會し、更に一步を進めて、理論の中に可能的状態に於て包含されてゐる實際的價值を觀破し、且適切有効な方途に依つてこれを十分に發揮實現するやうにしなければならぬ。然るに、在來の我が國に於ては、學者と實際家との提携聯絡といふことに間然するところが甚だ多かつた。即ち、學者は單に理論を主張しはなしであつて、其れの實際的應用に關して何等適切な暗示をも與へないと共に實際家の意見を徹して參考に資するといふやうなことが至つて尠かつたし、實際家も亦學者の意見に對してよい意味で批判的態度に出づることがなく、只沒批判的に肯定するか沒批判的に否定するかに過ぎなかつたのは、教育學説の實際的價值を減殺した所以である。随つて、本書の讀者諸氏にして、苟くも私の教育觀に何等かの價值を認められたならば、諸氏の素質と境遇とを根據としてこれを適切有効に活用されると共に、實地應用上に疑問又は缺陷を見出されたならば忌憚なく指摘して欲しいものである。

尙この點に聯關して一言すべきは、創造本位の教育觀は、反覆論述したやうに、普遍妥當性を有す

る教育學說であるが故に、苟くもこれを應用する人にして其の眞義を理會すると共に周匝な用意を以てするかぎり、如何なる程度の教育乃至如何なる方面の教育にも應用してそれと相當の効果ををさめることが出来るが、就中最も十分に應用し最も多分の効果ををさめ得るものは大學教育乃至専門教育だといふことである。蓋し、既に略述したやうに、創造性が十分に發動するのはこの時代だからである。斯くいへばとて、私は勿論初等教育乃至中等教育には應用が出来ないとするものではない。要は、前者が後者に比して一層應用し易く一層應用し甲斐があるといふのみである。更に別言すれば、普通教育に於ては創造性の萌芽に培ひ濫いで、被教育者をして教育の興味を感得し、教育の價值を理會し、自ら進んで自律的に教育を受けようとする要求と能力とを持たしめ、且刻々にこの要求を實現せしめ、斯くして將來完全な創造生活を營み得る基礎根柢を造らしめればよいといふのみである。

以上は、創造本位の教育観は新説であるが故に價值なしとする非難であるが、世には、これと反對に創造本位の教育観は必ずしも新學說ではなくて、在來の教育學說が主張したものを單に新しく力説するに過ぎないから、學說としての獨立の價值がないと非難するものもある。これは一見すれば一理ある非難のやうであるが、實は一を知つて未だ二を知らないもの、非難である。勿論、創造本位の教育観は決して徹頭徹尾新しい學說ではない。併しながら、徹頭徹尾新しいといふことは實は學術上あ

り得ないことである。凡そ一個の學說をして獨立の價值を持たしめるものは原理であるかぎり、新原理を有する學說は新しい學說といふことが出来る。併しながら、原理は人間の生命中最も客觀的な理知を直接動力とするものであるが故に、新しい原理の大部分は舊い原理を内容とすることは事實の證明するところである。少くとも原理を説明するには舊い原理の力に俟たなくてはならない。萬人が新哲學と認めたプラグマティズムの主張者ジエームスが、其の代表作 Pragmatism の標題に「或る舊い考へ方に對する新しい名稱」A new name for some old ways of thinking としたのはこの間の消息を語るものである。然り、要するに學說の差異は力點の置き所又は見方の差異である。然るに我が創造本位の教育観は如何なる教育學說とも異つた其自身の原理即ち「創造」を有すると共に、この原理を中心として他の教育學說と異つた教育の見方をしてゐるのである。随つて其の中に在來乃至今日の教育學說と共通する點があつても、それは決して他の學說と全く同一意義のものではない。たとへば、個性の尊重といふことでも個人主義的教育観の意味するのと創造本位教育観の意味するのとはかなりに違つてゐる。或は自律の重視といふことでも公民教育観のそれと創造本位教育観のそれとの間には没すべからざる差異がある。これを要するに、創造本位の教育観は、如何なる學說とも異つた其自身の原理を有し、且これを中心動力として教育に對して新しい見方をするかぎり、たとひ其の内容に於て他

の學說と一見共通するものゝやうに見える要素が介在してゐても、それは決して獨立の新學說たることを損傷する所以とはならないのである。別言すれば、創造本位の教育観は包括的統一的ではあるが、決して平凡他奇なき、若しくは陳套膚淺な單なる折衷說調和說ではない。然り、創造本位の教育観の學說としての一個の特色は、批判的であり統一的であると共に徹底的である點、即ち在來乃至現在に於けるあらゆる教育の主義學說を具さに解剖して其の長短を明かにする點に於て批判的であり、各種の教育主義教育學說の具有する長所を打つて一丸としようとする點に於て統一的であり、教育の本質から出發して其の究極に到達しようとする點に於て徹底的であり、随つて單なる折衷調和に墮しないで確乎たる獨立を保持するところに存するのである。

以上、要するに、私は自己の教育観の價值を單に時間的意義に於ての新舊のみによつて評價されることを欣ばないものである。蓋し、眞に價值ある學說は或る意味に於て時間を超越するものだからである。少くとも私の要求と信念とに於ては、創造本位の教育観は、時間的空間の見地から見れば價值があると共にこれらを超越する普遍的永遠的價值を具有するところに、一個獨立の學說としての存在理由があるからである。随つて批評家はよろしく私の教育観の普遍性永遠性が那邊に存するかを主眼點として評價すべきである。

第三の非難は、創造本位の教育観は一面に偏し勝ちであるが故に學說としての價值が少いと難するものである。これはたしかに一理ある非難であり、そしてひとり創造本位教育観の主張者賛成者のみの傾聽すべき非難ではなくて、凡そ新學說の主張者賛成者の何人も傾聽すべき非難である。何となれば、新學說は、少くとも其のはじめに於ては反動的反抗的破壊的な色調が強烈であり、随つて兎角一面的に傾き易いばかりでなく、其れは輕薄な阿附者追隨者摸倣者を作り易く、且これらの人々は新學說の本旨眞髓を理會することがないのに加へて、其の價值を誇張し、且何等周匝な用意も慎重な考慮も用ゐることもなしにこれをあらゆる方面に應用しようとし、随つて兎角は極端に走り、兎角は弊害を生じがちだからである。殊に、我が創造本位の教育観の如く革新的要素に富むと共に悪用され勝ちな傾向の多いものに於ては特に注意しなくてはならない。そしてこれは單なる杞憂ではなくて、實は否むべからざる事實である。何となれば、廣義の創造教育の提唱者の中にすら調子に乗つて意見を主張するものを生じ、そしてこれに賛成する實際家の中には、この教育観を以て怠業の口實とする極端なものさへ輩出してゐるからである。併しながら、これを以て私の創造本位の教育観が學說として價值が少いとするのは謬見である。少くとも私の提唱する創造本位の教育観は、これまで幾度も反覆力説したやうに、斷じて單なる反動的反抗的破壊的なもの、即ち一時的の價值しかない特殊的教育學說



でなく、随つてこの種の非難に依つて何等の傷害をも受けないのである。只併しながら、十分の理會なくしてこれに賛成し、十分の用意なくしてこれを應用しようとするものに對しては、注意を要する點がある。今左に其の項目を列擧してこの教育観に賛成する人達の參考に供することとする。

(一) 創造の眞義を誤解する時には、悪い意味の自由主義即ち自然主義放任主義本能主義現實主義となる。(二) 創造性の眞義を誤解する時には、凡ての被教育者に同一程度の創造生活を要求するやうになり、随つて教師本位主義と反對な意味で劃一主義となる。(三) 創造性を過重視する時には優秀者を標準とするが故に凡庸者劣弱者を犠牲にするやうになる。(四) 狭義の創造のみを主眼とする時には普通教育を専門教育と同様にし、子供と大人とを同様に取扱ひ、随つて却つて創造教育の本旨に乖戾するやうになる。(五) 模倣記憶服従忍耐整肅等の心作用を教育過程より排斥し、管理訓戒等を無意義とし、秩序制度規則等を蔑視し、教育の準備を忽にし、分析的教育法系統的教育法を排斥するやうになる。(六) 積極的發動的創造性又は幼時の創造性を過重する時には却つて被教育者の創造性の本質的發動を阻害し勝ちである。(七) 兎角方法手段を輕視し勝ちである。

以上要するに、我が創造本位の教育観は、其の觀方が根本的であり全體的であつて、本質精髓を徹底的に闡明する點に於て理論的價值を具備し、現代及び我が國の状態に最も適切な教育の原理である

點に於て實際的價值を保有するものである。唯其れが提唱後日尙淺きために、部分的に不完な點があるのと、其の眞義が十分に理會されないために實際家がこれを應用する際に多少の弊害が伴生することがあるのが、この教育観の缺陷であるが、それは斷じて本質的致命的缺陷ではなくて、多少の日子と若干の注意とによつて匡補することの出来る缺陷である。少くとも私は、この信念を以て、この教育観を提唱すると共に、この信念を以て着々上記の缺陷を匡救して行くつもりである。希くは大方の士よ。現在の缺陷を以て創造本位の教育観其のものを蔑視し排斥するなかれ。

## 創造本位の教育観終

大正拾壹年五月四日印刷

大正拾壹年五月七日發行

創造本位教育觀  
正價金四圓八拾錢

著者 稻毛 詛風

發行者 阪本 眞三

印刷者 吉田 松次

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場



發兌

東京市神田區表神保町七番地  
振替貯金口座東京八七二番

大同館

早稻田大學教授 金子筑水 先生 稻毛詛風 先生 著

第二十版

# 縮改訂 刷增補 オイケンの哲學

▲袖珍上製 美本全壹冊 金壹圓六拾錢 郵稅八錢▼

オイケン は現代思想界の明星也。從て苟くも思想界に關し精神事業に從事する者にして彼を知らずんば未だ到底哲學宗教道徳教育文明歴史乃至生活に論ずるの資格なし。我國亦滔々たる世の趨勢に動かされオイケンに接して茲に三年然かも多くは無責任なる斷屑碎片を傳ふるに過ぎず。幸にして既に三種の翻譯を獲たれども亦共に難解にして容易く一般の要望に酬ゆる能はざりき。著者茲に見る所あり難解深遠廣汎なる大哲の思想の野に蕩進して其の核心を攫み一流の體系と文章とを以て最も簡明平易に叙述し彼の原書乃至譯書を讀破し得ざるものに對しては勿論哲學的素養なき一般讀者に對しても容易くその要訣を解し得る如く叙述せんとして遂に本書を成すに至れり。苟も現代思潮の生命に觸れ生き甲斐ある生活を生きんとするものにとつて本書は正に夏日の霓雲ならずんばあらず敢て諸賢の清鑒を待つ

發行所 東京市神田區表町七番 大田同館

## 文檢受驗者必讀の要書

◇渡部政盛先生新著◇ (最新最詳の教育史大集成)

### 第三版 文檢 教育史

日本 東洋 西洋

最新最上製美本 全壹冊九百頁箱入 金六圓八拾錢 送料金壹圓

本書は既刊教育史の一般的缺陷を補ひ併て文檢受驗者の好伴とならしめん爲に著されたる者なり。特殊とする所は(一)日本東洋西洋とも古代より現今(二)世紀に至る迄の史實を全部網羅したる事(三)従来の教育史に無き支那以外(四)の諸國諸邦の教育及日本新領土殖民地の教育をも記述せる事(五)系統的にして簡單明瞭ならんこと努めたる事(六)從來問題として出でたる事項に就きては特に詳細なる概念的解説を試みたる事(七)練習問題を挿入したる事等なり故に教育史の研究は本書一冊にて十分なる事は言ふまでもなし

◇明治教育社編纂◇ (小學校教員檢定受驗者必備書)

### 第五版 文檢 教育大意

最新最上製美本 全壹冊四百八拾頁 金貳圓參拾錢 送料十二錢

本書は絶大の好評を博せし『國民道徳要領』の姉妹篇にして本邦顧問文檢合格者の秀才數氏に關り特に執筆を依頼したるものにして其特色は合格者の『道徳』を基礎として編纂したる事内容豊富にして且受驗者の爲に都合のよき様に記述したる事、事試験委員の説を随所に擧げたる事、問答解答を掲げ相似問題を多く載せたる事、文章の平易なる事等にあり。されば文檢教育に並に教育大意受驗者は勿論各府縣小學校教員檢定試験者にとりては無二の好参考書なり。

◇教育學術會編纂◇ (内容は徹頭徹尾受驗者本位の書)

### 第七版 文檢 教育勅語 詔書 解義

最新最上製美本 全壹冊四百餘頁 正價金貳圓 送料十二錢

年の文檢國民道徳要領を領するに五〇題中一問題は教育(勅語)或中(詔書)の中より出さるゝを常とする。然るに我が學界にはこれを受験的に採せられしもの一冊も無し之受驗者中往々其専門科目に於て受良の成績を示し乍勅語詔書の解釋が不十分なるに墜第を見る所以也。本書は實に之に鑑みて其非難を未然に防がむが如き中なれども之にして内容は徹頭徹尾思ひを凝らし文一語一語を平易如何なる人も之を讀みて其義を解するに苦しむが如き中なれども録として「御誓文」「憲法公布」をも解説したり蓋し文檢用書として完璧に近きものか敢て各受驗者の必讀をすするむる所以なり

東京市神田區表町七番 大田同館 發行所 東京市神田區表町七番 大田同館

● 書 讀 必 の 君 諸 家 育 教 年 青 ●

◇ 小林榮子女史考案 ◇ (藝術的趣味性・教化としての試み) 極彩色字體 第八  
 品製新 趣味俳句いろいろはかるた 正 價 壹圓八拾錢 送料十八錢

一つの創造は千の改造に勝ると聞きました。社會の改造は皆さん方兒童を立派な方とするより外ないと存じます。狭い庭の小草一つも趣味を持って面白く眺められますし千金萬金の石や木を並べても無趣味な人には只高價なるものと他に傲る心より外ありません。古來日本は趣味の國です。どうか皆さんは趣味ある高尚な紳士淑女となつて下さいませ。この品は日本文學の精髓とも云ふべき俳句より私が以前いと子の爲に撰んだかるたに繪を添へて皆さんの前に提供します。なされる間に日本文學のおもしろみが然分りになり趣味性に富んだ方々となられて追々物質の一方に荒んでゆく殺風景な世の中の清涼劑ともなつて下さいませ。皆さんが揃ふて立派な方に成て下さるのを願ふのであります。

◇ 福田正夫・井上康文氏共著 ◇ (明解なる初學者の手引) 袖珍形最上製 美本三百頁箱入 正 價 壹圓貳拾錢 送料十二錢

忽五版 童謡・民謡詩のつくり方 正 價 壹圓貳拾錢 送料十二錢

◇ 永野芳夫氏新著 ◇ (デューウイ教育の姉妹篇) 四六判最上製 美本全壹冊 正 價 金貳圓 送料十二錢

新刊 教育改造の原理 (感賞の生活・智性の高調・現在の讚美) 此改造の原理なり。試験全 附加的權威の排除・藝術自由育の徹底・固定道德の破壊・現行歴史の埋葬・平凡宗教の蹂躪・過去の哲學宗教教育藝術道德は悉皆破壊され、こゝに新に建設の純芽を生ず。これ又 一切生活の根本改造にしてラセルのそれよりも更に深遠切實也。教育家青年思想家の一 讀を希ふ。

◇ 市川一郎氏譯著 ◇ (最も初學者に適する入門書) 四六判最上製 美本全二冊 金壹圓五拾錢 送料六錢

新刊 最新認識論講義 本書は認識の根本問題に關する過去現在の學說を眞に何人も理解し得るよう巧妙簡明に講述せるものなり。一度本書を讀む時は哲學的論理的思索に無理解なる人土も將に既刊類書の難解に絶望せる人土も易々と眞理探求の眞方法を會得するの歡喜を味ひ得るや疑なし篤學の士の愛讀を待つや切なり。

東京市神保町七番地 大 同 館 發 行 振東 替東 貯金 七口 座貳

東京市神保町七番地 大 同 館 發 行 振東 替東 貯金 七口 座貳

明治教育社編纂

（熱狂的大歡迎を受け發行盡きす）

# 文檢用國民道德要領

四六判最上製美本  
全壹冊五百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

## 第廿貳版

（本書の特色）

▼合格者の経験を基礎として成可受験者の便利を圖りたる事▼文章を平易にして勉めて大意を把握し得る様に記述したる事▼本文の外に参考として井上・吉田・深作・野田・互理・藤井・和田等の試験委員は勿論其他の倫理學者の説を委く網羅したる事▼各章毎に總括して復習に便ならしめたる外受験に關する注意を掲げたる事▼類似問題を掲げたる外實踐道德要領を附して受験者の便宜を圖り且つ受験に關する注意を掲げたる事▼要するに本書一冊を讀めば文檢の受験に合格するは勿論尙道んで國民道德を研究せんとするものにも好箇の指針たるを失はず。

教育學術會編纂

（文檢受験者必讀の良書）

# 文檢問題解答

四六判洋裝美本  
全壹冊約三百頁  
正價金  
壹圓七拾錢  
送料八錢

## 最新刊

好評  
激甚

本書は文檢「教育大意」「國民道德要領」受験者の爲に第一回より最新大正八年度までの全問題に對して解答を試みたものである。故に讀者は本書に依て答案作製の次第と程度とを知り更にこれを記憶することに依て同一問題の出でたる場合合理的なる解答をなすことが出来る附録二編は「教育大意」受験法と「國民道德要領」受験法で同時に參考書研究法答案の心得等をも收めてをる。要するに兩科の受験者の最良相談相手である。

◆稻毛詛風氏新著◆

（著者多年研究の第一發表）

# 第拾版 教育者のための哲學

四六判最上製美本  
全一冊五百卅頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

教育者としての光と力  
とを獲んとする士は來れ

凡そ教育者に高大なる理想と確乎たる信念とを與ふるものは哲學也。然るに遺憾なる哉我が國の哲學者教育者にしてこの點に努力する者皆無に近し、幸に多年哲學と教育學とを兼修し「教育哲學」の建設を以て一大使命とする著者はこの現状を痛歎するの餘り本書を公にして（一）哲學が特に教育者に必要なる所以と（二）教育者に必要なる哲學の概念と（三）教育哲學の意義及價值とを的確詳細に闡明することに依つて上記の缺陷を根本的に匡救せんとす、教育者としての光と力とを獲んとする士は來れ。

◆永野芳夫氏新著◆

（最近教育思潮中の明星）

# 第五版 デューワイ研究の權威

四六判最上製美本  
全壹冊三百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

（デューワイ研究の權威）五年以前から没頭的にデューワイを研究してゐた著者が全てつけたその系統的的研究の成績を澤柳博士長田教授の二つの推賞のまゝに公にすることになつた行詰つた今日の教育と教育學に不満をもつのはデューワイに來れ！在來の紹介や翻譯を讀んで未だ釋然悟徹しなかつたものは本書を讀め！！

東京市神保町七番地 大田區 同發館行

東京市神保町七番地 大田區 同發館行

奈良女子高等師範學校訓導 櫻井祐男氏新著

# 第四版 生を教育に求めて

四六判最上製英本  
全書册六百餘頁  
價金  
圓八拾錢  
送料十二錢

著者曰く私はよほどの眞摯と敬虔をもつてこの書を私の同伴の士たる天下萬の青年教育家諸君に捧げたいと思ふ。主人公欽一は人生の寂寥さに悶えながらも尙ほ己が生の審美と優越に深き固き信據と信念を有ち教育を以て己が人生—生活と思想し其生活的顯現の爲に日夜の赤誠を致さうとしてゐる。而かもそこに總てを捨て、總てを獲ようとする矛盾撞著のたゞ中に仁王立ちに奮激してゐる彼が性格の強さ弱さが思れるであらう。その強さ弱さから来る彼が生の懊惱と約略は解決は解決のまゝに未解決は未解決のまゝに必ずや讀者諸君の人生の上は何等かの示唆と感激を齎すであらう—ことを疑はなす。

- (一) 唯一途に吾れを愛すが故に…… (二) 紅き血と高き鼓動と…… (三) 「教育即生活」と信するまで…… (四) 天の慈光地の靈照…… (五) 誰をもつて母を慕ひて…… (六) 子供よ、總ての絆を解いて平明に…… (七) 哀れ子供の世…… (八) 産合ふ如き慈雨…… (九) 彼の出勤を願ひて…… (一〇) 彼れでも尙ほ解かぬ遠足…… (一一) 生れざるもの悲哀
- 内容目次一斑…… (一二) 梧桐の蔭に立ちて…… (一三) 總てがない生活—美…… (一四) 温かみと柔和に自然にかざる高…… (一五) 先生…… 太鼓の音が聞えます…… (一六) 唯悲壯と流る—尺八の音…… (一七) 唯一日を休む…… (一八) 暗震へてゐる…… (一九) 總ての制縛に堪へて…… (二〇) 奈良に來て唯一の財寶…… (二一) 誰にもは解し…… (二二) 唯その生は震へてゐる…… (二三) 同志よ來れ語らうに…… (二四) 同職の士よ何を見に……

東京市神保町七番地 大館發行所 振替東京八七番 貯金口七番 座番

大館發行所圖書目錄

◆文學士今井政吉氏新著◆ (世界の謎は解かる)

# 第三版 露西亞文明記

四六判最上製英本  
全書册五百餘頁  
金貳圓五拾錢  
送料十二錢

歐洲大戰中世界に率先して無産者の革命を遂行

したのは露西亞であるが革命後こゝに数年を經る各國の賛否も區々である併しその世界の均しく驚異も未だ全く完成するに至らず従つてそれに対する革命の意義に至つては世界の均しく驚異とする所なり。それは決して偶然的革命の眞義を知らむと欲せしき露西亞を識らなげ革命を産まなげ急激的な出来事ではない而して革命的な先づ革命前の生きた露西亞を識らなければならぬ本文化史である。著者は歐洲人と淺搔きつゝあつた悲壯なる露西亞を探らなければならぬ本文化史である。著者は歐洲時に互て親しく彼地に滞在し革命を孕つたあつた露西亞文化の凡ゆる現象及狀態を實地に踏査し其真相を瞭如たらしめたもの

◆ドクトルフイ上—恭輔氏新著◆ (初版再版忽ち賣切)

# 好評 生殖器崇拜教の話

袖珍裝英本  
金六拾錢  
送料二錢

本書は當今大人氣の性慾問題を捉へて流石の風潮に乗ぜんとするキワ物ではない本眞は紀州の南方熊楠先生と共に隠れたる二大學者の世評ある大連の上田氏の得意のもので既に英譯あり佛譯あり生殖器崇拜問題を學術的組織的に研究したる本邦で最初の試みである。

日本及日本人批評……生殖器崇拜に就いて古今の面白き事實傳説を述べ宗教的の意義を説けり短篇なれど頗る趣味多き書である。

大同館發行圖書目錄  
第八版發賣

**性慾教育の研究**

ドクトルメジチーネ 羽太銳治先生新著

四六列最上製  
美本全壹冊  
正價金貳圓五拾錢  
郵税金十二錢

性慾教育を施すべきや否やに就ては我が國に於て未だ是非の結論に到着せざると同時にこれに關する著書も亦甚だ多からず本書は乃ち情慾教育の意義理由範圍及方法等に就き筆を起し兩性の發達生殖機能及諸種の性慾現象に就き心理及生理の兩方面より極めて具體的に且つ詳細に説きたるものにて同教育の研究資料として利する處尠からざるべし

數百年來の習慣 性的生活の包める無智の幕 當時の社會狀態 文明に伴ふ惡弊 獨逸の花柳病豫防會議 花柳病に關する知識の缺乏 少年時代の人間に示すべき事 春機發動期に於ける性慾の發達 性的罪惡の二人事實 文明的罪惡の感染 笑婦の起原のみ 精神の感傷 覺悟の實況 淫 兒童の性交 自願的性慾の發達 性的罪惡の二人事實 文明的罪惡の感染 責任者の罪 柳病の特殊の教育 教師に對する性慾の教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき材料 學校教育及其他の特殊の教育 教師に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき私的性慾教育 性慾教育の實施 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき生ずる弊害 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき生理學的意義 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき自然科學的說明 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき生殖の成分及發達の時期 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき無差別の感情 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべきモリス氏の研究 性慾教育の根本 兩親に對する性慾教育 學校に於ける性慾教育 學生の生活方面 兩親に推薦すべき

最新刊

**生理衛生教授の理論及實際**

前岡山縣學校衛生主事 醫學士 井上 金輔  
岡山縣立師範學校 奥山壽太郎 木山淳一 額田勇 共著

實際教育家の直ちに役立つ生理衛生教授の羅針!!

新文化の建設に當り國民の體育を振起し改革するの必要なるは示明の事。而して學校衛生學も近來物興して教授衛生の聲日々に喧し。然るに我が普通教育の實際を見るに之れが根柢たるべき生理衛生の教授生得を得ず從つて兒童生徒は自らの衛生に盲者の如し。著者これを遺憾として本書を公けにせり本書を用ひば兒童生徒は趣味津津の中に生理衛生の知識並に實行法を會得するは期して待つに似たり。今更躊躇するは愚購ひて教授に試む者賢といふべし。

次の「目次の一班」を見よ

第一篇 理論篇  
第一章 觀過されたる生理衛生教授  
第二章 生理衛生教授の目的  
第三章 生理衛生教授の取扱方針  
第四章 生理衛生教授の實際的取扱

第二篇 教材篇  
第一章 人の體  
第二章 皮膚  
第三章 消化管  
第四章 呼吸器  
第五章 泌尿器  
第六章 生殖器  
第七章 血液  
第八章 循環系  
第九章 調節系

第十一篇 生理學  
第十二章 視覚  
第十三章 聴覚  
第十四章 嗅覚  
第十五章 味覚  
第十六章 觸覚  
第十七章 痛覚  
第十八章 以上各章の各章ごとくに教材解説・實驗觀察・衛生及

小學校生理衛生教授細目 (附)  
疾患・疑問解決の四項を設置して詳述せり。

本館發行

東京市神田區表神保町七番地

菊判最上製美本全壹冊  
紅影五百箱入挿圖入  
正價金參圓八拾錢  
送料十八錢

青年教育者絶好の慰安書

第九版 若き教育者の自覚と告白

◆ 稻毛詛風氏新著 ◆ (熱血の氣紙面に横溢せる著述) ◆

四六判最上製美本  
全壹冊三百餘頁  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

著者一度教育界を去るや之れが謀反者と自稱す。而も斯界と小學教師の運命を思ふ一念切々の熱誠は遂に勃發して本書をなす。本書は正しく教育界に對する覺醒の聲也。奮勵と慰安とを與ふる福音也。滿天下の有爲なる教育者に共鳴する閨々の哀情を披瀝せる者は本書也。氏が然厚の烟霞は教育者の内生活と教育界の眞情とを抉剔して餘ます所無く火の如き熱烈の言辭と花の如き多趣なる筆致とは人情の機微と學理の精到とを結して百花燦爛の觀を呈す。小冊なれ共全卷一の空言なく熱誠の氣紙面に横溢充實す加ふるに多感にして自助の人たる氏が意氣あり趣味ある前半生は悲照眼と批判によりて瀾灑の筆致となり最大膽赤襟々に告白せらるる意義ある生活に生きたる者は本書を讀め、生と自己に自覺せんとする者は本書を讀め、教育者の眞價を知り權威を高めんとする者は遂に本書を讀め。

第六版 青年教師の歩める道

◆ 稻毛詛風氏新著 ◆ (前書の姉妹篇として必讀の書) ◆

四六判最上製美本  
全壹冊四百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

教育界の「謀反者」として斷然教職を放棄し刻苦勵精以て今日に到れる著者が教育者の生活と教育界の現状とを觀て感奮措く能はず遂に六年に亘れる教師生活の全部を披瀝したるのには本書也。多感にして俊銳なる青年田舎教師が暗澹たる家庭と荒涼たる社會の間にあつて如何に自己の眞實のために力爭苦闘憤懣したるか深刻にして赤襟なる告白的叙述が如何に從來隠されたる人生の一斷面を簡明したるか有爲なる教育者は勿論苟くも眞實なる生活の求むるものは乞ふ來りて本書の展開せる嚴肅悲愴なる人生の事實を見よ。

◆ 三浦修吾氏新著 ◆ (教師者としての慰と力とを得んとする士にすむ) ◆

四六判最上製本  
全壹冊五百頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

著者は教育者として十幾年の苦しい生涯を送つて來た。肉體にも性格にも智識にも多くの缺點を有つてゐた著者は導かれる方へ進まん爲め眞摯に考へ純粹に感じ強く實行せんとして幾多の障礙に出會いた。頭き乍ら血を流し乍ら猶ほ光明に向て進まんとして細いかすれた聲を出して叫び續けて來た。其の聲がこの書と爲つたのである。思想の上には實際の上に家庭生活の上にとれず著者が苦闘して來たか其事が何事かの暗示を有つものであり得たら著者の幸は之に過ぎない。

第五版 教育者の思想と生活

◆ 三浦修吾氏新著 ◆ (教師者としての慰と力とを得んとする士にすむ) ◆

四六判最上製本  
全壹冊五百頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

著者は教育者として十幾年の苦しい生涯を送つて來た。肉體にも性格にも智識にも多くの缺點を有つてゐた著者は導かれる方へ進まん爲め眞摯に考へ純粹に感じ強く實行せんとして幾多の障礙に出會いた。頭き乍ら血を流し乍ら猶ほ光明に向て進まんとして細いかすれた聲を出して叫び續けて來た。其の聲がこの書と爲つたのである。思想の上には實際の上に家庭生活の上にとれず著者が苦闘して來たか其事が何事かの暗示を有つものであり得たら著者の幸は之に過ぎない。

◆ 文學士林 鎌次郎氏新著 ◆

菊判最上製美本 正價金參圓五拾錢 送料金十八錢

大ベルリンの教育

教育第一!! 教育の時代は來た。軍備縮少は教育立國策を必要とす。日本の孤立無援は獨逸以上であつて之を打開するは教育の外にない。教育の時代は來た。國民眞劍の事業は教育である。而して吾人は之が範をドイツに求めねばならぬ。大文字である。外人の見たる獨逸教育の精髓である。國字版割中の最大權威である徹底的國家教育を求むる者は來れ。學校教育社會教育の實際を知らんとするものは讀め。

(目次の一斑) ◆ 第一ドイツ魂 ◆ (クルツールの由來―クルツールの意義内容―ドイツの民族性) ◆ 第二ドイツの教育概観 ◆ (ドイツ教育の精神―ドイツの初等教育―ドイツの中等並高等教育) ◆ 第三大ベルリンの國民學校組織 ◆ (大ベルリン國民學校の組織―學級編成) ◆ 第四大ベルリンの國民學校教育内容―國民學校教育の内容―教授内容とその取扱方法―教授の特徴―學校管理) ◆ 第五大ベルリンの補習學校 ◆ 第六大ベルリン及中等學校 ◆ (男子中等學校の組織及教育内容―女子中等學校) ◆ 第七大ベルリンの專門學校 ◆ (市立中等專門學校―初等專門學校―非市立專門學校) ◆ 第八高等教育機關 ◆ (ベルリン大學―工業大學―農業並に森林專門學校―獸醫嶺山大學並に美術專門學校―私立高等教育機關) ◆ 第九大ベルリンの社會教育 ◆ (學齡前後の青年擁護施設―學齡兒童の給養と保健―病弱兒童に對する施設―貧兒孤兒並に不良少年に對する施設―心身缺陷兒童の特殊教育―技藝科教授施設) ◆ 第十通俗教育 (附)ベルリン教育協會通俗教育課程―專門通俗課程(附)國民讀本及國民文庫―國民娛樂機關―ベルリン教育協會) ◆

最新刊

東京市神田區表神保町七番地 大 同 館 行 發

東京市神田區表神保町七番地 大 同 館 行 發



立成の願本ふ救を靈心に劫永來未!!力の仰信

文學博士 富士川 游氏 文學士 朝日融溪氏新著  
京都佛敎大學教授 梅原眞隆氏 文序

### 忽三版 親鸞聖人の出現と其思想

四六判最上美本  
金壹冊三百頁  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

歴史は時代々の偉人と稱へらるゝ非凡人の記録であつた。彼等は自己を以て世を化せんとしてゐた。或は政權によつて或は軍權によつて或は金權によつて。さうして互に交際し相排擠し、血みどろになつて嗚いである。吾人よつくなく、非凡文化に愛想が盡きた。嫉妬、排擠、自衛、争奪、もろ見るも聞くも嫌だ。自ら早く凡人文化の建設に急がなくてはならぬ。早ければ早いだけ眞の平和は早く來るのだ。而してこの凡人文化の歸結は我が親鸞聖人の思想によつて完したといつてよひのである。

（一）蒲團著て寝たる平安京……（二）平地に弘まれる佛敎……（三）崇高なる山嶺へ……（四）伏魔殿莊嚴なる經書裡の食肉鬼……（五）聖人の出現と出家……（六）かゝる時代を如何に見し……（七）反抗か同情か……（八）山嶺の崇高から下俗に下らんを欲する佛敎……（九）他力敎の源は淨土敎の流……（一〇）法然聖人の……（一一）我が聖人も亦山を下る……（一二）夢幻を何と見る……（一三）かくの如くにし聖人出づ……（一四）我が聖人の人格……（一五）聖人の文化……

東京帝國大學教授 島地大等・加藤咄堂 一氏  
東京高等師範敎授 中村碧湖・松岡良友著

### 第三版 熱と力と 涙とに輝く 本願寺全史

四六版最上美本  
全一冊六百餘頁  
金參圓貳拾錢  
送料十八錢

世に親鸞を説き運如を語りしものは決して少からず、されど宗祖以來六百餘年に互り修治民衆を中心として活動せし本願寺の盛衰興亡の眞相を組織的に大成せし本願寺の全史は未だ發見せざるべし。本書は第一期草創時代親鸞より三期蓮如二期法然時代西世善如より七世存如三期中興時代蓮如より第四期戰時時代實如より十一世顯如より第五期東西分立時代より現代までの波瀾重疊一起一伏を明瞭に照して詳説論評せし敎界稀有の良書なり文章は平易簡明趣味亦津津として盡きざるべし。宗敎思想の正に世を指導の中心點と成らんとしつゝある現代に於て心を人生問題生活問題に潜むるの士は是非本書を繰かざるべからず。

◇ 定撰書圖育教俗通省部文 ◇

海軍造船大監 櫻井省三氏 校閲 文學士 鈴木周作氏譯

### 四好評 提督 日本遠征記

四六判最上製美本  
全壹冊五百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

稀代の珍書出づ!!

〔批評〕班東京朝日新聞評：修交通商條約談判の經過が寫生風の記事文で恰も眼前に見る如く精細に叙述してあるので外國人に眼に映じたる當年の日本が如何なるものであつたかを知らるに屈強一であるが史料としても貴重なものが其れよりも趣味饒かなる讀物とし手を措くに忍びぬ感がある。大阪毎日新聞評：五十年前の我國の光景を寫映せる活動寫眞でも見て居る如く感あらしむ云々歴史地理評：『日本遠征艦隊の卷』二琉球の卷、三横濱の卷、四下田の卷、五浦賀の卷、六函館の卷、七等八編に分ち小題目を附し讀者の便を計れり。新小説評：當時と現今と比較するもの面白が我々の祖先が黒船を見て如何に感じたかを考へるもの一興た。日本人は是非讀む必要がある本た。東京日々新聞評：一度讀めば巻を措く能はざる近來の好著である。

### 五好評 新井白石著 讀史餘論

四六判最上製美本  
全壹冊五百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

〔校訂嚴密異本を参照せしは本書の一大特色〕〔御注意〕御買求めの節は必ず申添を希ふ。内外敎育評論曰く：白石の讀史餘論の價値は今更論するの要なし本書は主として白石の外孫藤清益の贈寫本に據り其他諸種の異本を参照して増補せるもの也從來世に現れたるもの、中で最も信頼するに足るべし。そして原本の評語註語のほかに新に校訂者が補註を附し以て異説を擧げ且つ註釋を施して研究者の便を計れる勞は多とすべし。且つ一々讀み假名を附し巻末に索引を添へたり。

東京市神田區 大田同發行 東京市神田區 大田同發行

▼世界の日本●東洋の日本●我等の日本●これをこの書に得よ▼

◆東京帝國大學文學部助教授 文學士 植松安氏新著

好評  
六版

# 古事記新釋

四六判最上製美本  
全一冊五百餘頁  
正價金  
貳圓五十錢  
送料十二錢

著者はこの古事記を脱くに當つて神代の卷に最も力を注いだ事を一言して置く索引については單語の解説を見出し得るのみならず古事記本文の事項を探り得るから目錄の代用となる——●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ●著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれて大和民族發展の向來を明にし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり●今や大戦後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これをこの事に得よ●

◆東京帝國大學文學部助教授文學士植松安氏新著(四六判最上製美本全貳冊 紙數壹千參百餘頁箱入)

好評  
激甚

# 假名の日本書記

(上卷)  
金參圓五十錢  
(下卷)  
金參圓八拾錢  
送料各十八錢

日本書紀の一體に假名日本書紀といふのよ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ其存在を知る人が少い。本書は著者、出來るだけの手を盡して調べ得た廿餘種の異本を参照して著述したものである。内容は本文を漢字交りに書下し假名に假名を附し假名に漢字を當て一段毎に簡明なる註解を加へ索引として辨ずべき詳細なる目錄を添ふ。我が國體の淵源を知り國民性の本質を明かにせる正確なる國史を最も平易に讀み得る書である。學者政治家教育家神職を初め其他何人も是非一讀すべき書である。

●新國定小學國史教科書に對する第一聲  
□教育專攻 栗山周一氏新著 □ 四六判最上製美本全壹冊六百頁 正價金貳圓八拾錢送料金十八錢

# 最近歷史教育的根本的革新論

新時代の教育は新思想の上に立脚すべし。無自覺なりし舊教育は此際斷然拋棄破壊せざるべからず。而して舊き事その物を教授する歴史科の如きは最も根本的の改革を要す。本書は新教科書の生れ出でたるを期し新教科書に依り一般國史教育に對する根本的哲學的原理及び其の取扱ひに對する實際的批判を著者の思案と體驗に基づきて原稿從來の歴史教授法を破壊したるは本書なり將來に於て行はるべき新教授法 建設したるも亦本書也。歴史哲學の根本的原理に立脚したる歴史の教授法は本書を以て嚆矢とす。

出版されし彼の權威なき教授日案式の嚙んで含める様に書きたる一時的營利的の著者とは全然其選を異にし言々句々總て根本原理に依り廣く内外諸家の説を引用し參考し批判し著者が眞劍なる態度を以て讀者に見ゆ、唯に小中學校歴史科教員のみならず一般教育者の是非一讀すべき著書なり。敢て全國の教育界へ本書を勸む。

◆◆第五版◆◆

東京市神田區表保町七  
大同館藏版

支那哲學の權威

東京帝國大學 文學博士 宇野哲人氏著 (文檢國語文受驗者必讀書)

四版 四書講義 大學

菊判最上製美本  
全壹冊約三百頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

大學は儒教の目的を最善く組織的に叙述せる者なりとは著者の創唱する所。此書は如上の見解によりて平易明晰に講述せる者にして冠するに大學の旨を以てし且つ附するに索引及之と密接の關係ある幾多有益の研究を以てす。苟も儒教の何物たるかを知らんと欲せば必ず此書を讀みて著者の眞實なる講話を聞かざるべからず(附録に十三題解あり)

五版 四書講義 中庸

菊判最上製美本  
全壹冊約三百頁  
正價金貳圓五拾錢  
送料十二錢

儒教の目的は大學に備はり、儒教の根本義は中庸に明かである。かくて中庸の二書は總となり論となり互に相持つて儒教の眞相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著しし今亦中庸講義を成す。大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の土は請ふ更に中庸に就いて儒教の眞面目を了せよ。尙附録數篇は皆直接間接に中庸の意義を明かにするものである。

東京帝國大學 文學博士 宇野哲人氏著 (文檢國語文受驗者必讀書)

新刊 二程子の哲學(支那哲學大綱)

四六判最上製美本  
全壹冊二百餘頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

著者は常明道程子を推稱して孔子以後の第一人として私淑するもの故に年々明道程子の哲學は常に此の地位に本づきて成る既に明道の爲人を知らば共に聖學を倡明せし伊川程子も亦吾人の知らねばならぬ。伊川程子の哲學は其學風夫々特長ありて後來宋學を開き宋教に於て最も重要な位置を占むるのである。伊川程子の哲學をも併論する次第である著く讀者は此書の獨り二程子其人を參觀せしむるのみで無いことを知るであらう

大 同 館 行 發 書 目 錄

東京帝國大學文科大學助教授 宇野哲人新著 文檢受驗者必讀書

支那哲學史講話

菊判最上製美本  
全壹冊五百頁  
正價金貳圓八拾錢  
送料二錢

本書は上古より清末に至る支那思想の概要を極めて平易簡單に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり。特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裏に革命を惹起するに至りしか、支那の新人の思想は如何なる傾向を帯ぶるか、著者の最も留意せし所にして從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補足せられて亦遺憾なし。本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ。要するに本書は初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の新著なり。

拾四版 發賣

內容目次

- 序論 第一編 上古 第一章 唐虞三代概説 第二章 周易 第三章 孔子 第四章 孔門の諸子 第五章 中庸 第六章 荀子 第七章 孟子 第八章 荀子 第九章 老子 第十章 揚子 第十一章 莊子 第十二章 墨子 第十三章 名家 第十四章 管子 第十五章 申不害 第十六章 商子 第十七章 韓非子 第十八章 王充 第十九章 六朝哲學の概説 第二章 兩漢思想界概説 第三章 淮南子 第四章 意仲序 第五章 揚雄
- 第二編 中世 第一章 王充 第二章 六朝哲學の概説 第三章 文中之子 第四章 唐初哲學の概説 第五章 魏晉 第六章 王充 第七章 六朝哲學の概説 第八章 文中子 第九章 唐初哲學の概説 第十章 韓愈 第十一章 柳宗元 第十二章 宋明道 第十三章 程伊川 第十四章 程門の諸子 第十五章 朱子 第十六章 陸象山 第十七章 張栻 第十八章 釋明道 第十九章 程伊川 第八章 程門の諸子 第九章 朱子 第十章 陸象山 第十一章 張栻 第十二章 釋明道 第十三章 陳白沙 第十四章 王十明 第十五章 陽明以後の學界 第十六章 陽明以後の學界 第十七章 陽明以後の學界 第十八章 陽明以後の學界 第十九章 陽明以後の學界 第二十章 陽明以後の學界
- 第三編 近代 第一章 近世哲學の概説 第二章 近世哲學の概説 第三章 近世哲學の概説 第四章 近世哲學の概説 第五章 近世哲學の概説 第六章 近世哲學の概説 第七章 近世哲學の概説 第八章 近世哲學の概説 第九章 近世哲學の概説 第十章 近世哲學の概説 第十一章 近世哲學の概説 第十二章 近世哲學の概説 第十三章 近世哲學の概説 第十四章 近世哲學の概説 第十五章 近世哲學の概説 第十六章 近世哲學の概説 第十七章 近世哲學の概説 第十八章 近世哲學の概説 第十九章 近世哲學の概説 第二十章 近世哲學の概説
- 第四編 現代 第一章 現代思想界概説 第二章 現代思想界概説 第三章 現代思想界概説 第四章 現代思想界概説 第五章 現代思想界概説 第六章 現代思想界概説 第七章 現代思想界概説 第八章 現代思想界概説 第九章 現代思想界概説 第十章 現代思想界概説 第十一章 現代思想界概説 第十二章 現代思想界概説 第十三章 現代思想界概説 第十四章 現代思想界概説 第十五章 現代思想界概説 第十六章 現代思想界概説 第十七章 現代思想界概説 第十八章 現代思想界概説 第十九章 現代思想界概説 第二十章 現代思想界概説
- 第十六章 春秋公羊學流 結論

東京市神保町七番地 大 同 館 行 發 振 替 貯 金 口 座 東 京 東 區 神 田 七 番 地

東京帝國大學 文學部教授 文學博士 吉田熊次序 市川一郎氏譯著

# 第九版 教育の基礎たる哲學

四六判最上製  
美本全壹冊  
五百頁箱入  
正價金  
貳圓五拾錢  
送料十二錢

我教育家をして明晰なる思想の所有者ならしむること  
之本書の使命なり

常識と科學との部分的的人生觀及教育觀を排して哲學的即ち全體的人生觀及教育觀を與へ以て我教育家をして明晰なる思想の所有者ならしむること之本書の使命なりとす。明晰なる思想考より生ずる驚異すべき力の利用は凡ての事業を最も有効に而も極めて容易く且大なる喜びを以て爲さしむるは多言を費さずして明かなるべし。原書は米國最近の名著、譯文亦平易簡明哲學的素養の皆無なる人士と雖も易々として現代哲學の概觀を捉提し健全なる哲學的的人生觀及教育觀を樹立し得て以て從來と全く異りたる意義あり價值ある新生命を開拓し得んこと疑なし。江湖の必讀を要望して止まざる所以なり。

## 次目内容

- 緒論……第一章 科學の目的範圍並に方法……(科學の目的……科學の範圍……科學の方法……科學と人生との關係)……第二章 哲學の目的範圍並に方法……(哲學の目的……哲學の範圍……哲學の方法……哲學と人生との關係)……第三章 科學と哲學との一般關係……(科學と哲學との比較研究)……第四章 哲學と教育との關係……(教育の哲學的方面……教育の形而上學的方面……教育の認識論的方面……教育學說の論理學的方面……宗教哲學の教育的意義……教育學說の美學的意義……教育學說の倫理的方面……第五章 主意的 唯心論的倫理學的教育的意義……(最高善推究の倫理學……教育の目的及手続……教育の目的としての自我實現……理想と實際教育との關係……教師と授業)……結論

東京市神保町七番地 大館發行所

東京市神保町七番地 大館發行所

「教育の基礎たる哲學」著者 市川一郎氏譯著 (現下必讀の參考書)

# 忽三版 教育の基礎たる社會學

四六判最上製美本  
美本全壹冊四百頁  
正價金貳圓  
送料十二錢

文部省は社會教育の必要を痛感して  
今回愈々勅令を以て  
社會教育課を新設す

本書は米國碩學の近著に係る應用社會學の一なる教育的社會學に據りて社會學の主要なる原理と此の原理に立脚する教育の社會學的解釋とを講述せるものである。過去の因襲教育が心理學に依りて改造せられたるが如く行き詰れる現代の教育は是非として社會學に依りて改造されなければならぬ。實に本書の説く廣大にして根本的なる教育學說は狹隘なる天地に閉居せる今日の教育を廣潤清明なる曠野に誘導するものである。英國の士の必讀を要請す。

群馬縣立師範學校教諭 齋藤始雄氏新著 (大好評)

# 三版 圖書教育上の四大改造論

四六判最上製  
美本全壹冊  
正價金壹圓  
送料十二錢

「天下の要求に應じて「自由畫教育論と實際」の姉妹篇漸く生る」自由畫の奮起によつて目醒めた圖書教育界には續々と改造の鐵錘が下つてゐる。本書は著者獨唯の慧眼と筆致によつて自由畫の基調たる新界の四大改造を論述し詳細親切に建設した愛書である四大改造とは何か？曰く自由畫論か、鑑賞教育論か、又美術史教育論か？否々然らず。より一層根本的なる重大問題があるのだ。吁!!實に國家のため眞剣なる實際教育に従事するの諸君よ。只本書を備へて解決を見られんことを。

大館發行所圖書目錄

◎渡部政盛氏新著◎

四六判最上製  
美本四百餘頁

正價金貳圓

送料十八錢

# 現代改造的教育思潮批判

## 忽七版

行き結れる我が教育思想界は新人の新教育提供に依て今や根本的に改造せられんとするに至つた。曰く自由教育(千葉師範)曰く文藝教育(井上)曰く創造教育(稻毛)曰く一切動悉皆満足教育(千葉)曰く自學教育(樋口)曰く自動教育(河野瀧川)曰く文化教育(藤坂)曰く教育即生活論(藤原)曰くプロセクトメソッド等なり本書は滿天下の教育者のために上述の改造的教育思想を詳細に紹介し更に加ふるに著者一流の深刻なる批判を以てしたるものである故に學者は本書に依て現今改造的教育思想の全體を知悉し得べく又同時にそれらの新思想の價値如何をも究めることが出来る希くば世の教育者よ本書を讀むことに依て新時代の教育者たるの名と實とに背くこと勿れ。文檢受驗者亦本書に依て最近時の教育思潮を會得すべきである。

——(大好評初版忽ち賣切増刷出來)——

第一章 諸論	第四章 創造教育思潮	第七章 プロセクトメソッド
第二章 改造的教育思潮大觀	第五章 自學的教育思潮	第八章 結論
第三章 自由教育思潮	第六章 教育的生活の教育思潮	改造的教育思潮の総合的批判
文藝教育思潮		

東京市神田區表神保町七  
大 同 館 發 行

◎渡部政盛氏新著◎ 菊判最上製美本 全壹冊五百餘頁 金參圓八拾錢 送料金十八錢

# 日本教育學說の研究

**本邦最初の著述** 行詰れる日本の教育學は如何にせば之を開展し得るだらうか、教育學者の夢を醒し其の正體を新人の前に曝露するより外に途はない。蓋し覺醒と自憤と義憤とを促し獨自の價値ある種々の研究はやがて此の渦の中から生れるからである本書は斯くの如き貴き使命を帯びて公にされたものである。内容は：諸論：第一章 明治前半期の教育學說

●●●(最近教育學說の叙述及批判の妹篇)●●●第二章 日本最近の教育學說：第三章 個人的教育學說(谷本)：第四章 社會的教育學說(熊谷、樋口、吉田、中野田)：第五章 調和的教育學說(大瀧、森岡、小西、溝淵)：第六章 生活完成の教育學說(下田)：第七章 文化的教育學說(乙竹)：第八章 人格的教育學說(中島)：第九章 實際的教育學說(遠藤)：第十章 自動的教育學說(河野)：第十一章 公民的教育學說(川本)：第十二章 創造本位教育學說(稻毛)：第十三章 分國式動的教育學說(及川)：結論の諸章より成つてをる。特色は諸家の學說の詳叙と忌憚なき批判とにあるは言ふまでもない。隨て學者先づ本書を讀むの義務があり、教育學徒文檢受驗者は本書に依て學者の說の要點と長短とを知る必要がある。敢て弊館の大言以て江湖に本書を推薦する所以なり。

## 三版發賣

東神 京田 市區 大 同 館 發 行

◀ 第三版 ▶

新定國史教授用参考書として最も完備せるものは之れ

●東京成城小學校主事文學士 饒阪國芳氏監修○○○  
 京都府女子師範學校教諭 德重 淺吉 同訓導 吉良佐太郎  
 京都府女子師範學校訓導 松本 正男 同訓導 内藤 孫一 共著

史眼の養成  
 國史教授の原理及實際

（菊判最上製美本全壹冊四百頁 正價金參圓五拾錢 送料十八錢）  
 新定教科書編纂の眞精神 ○ウインターランド・ランプレヒト・ベルグソン・サンタ  
 國史成立の文化的絕對根據 ヤナ・デユウイ等の哲學說に基き皇道の合理的無限  
 光輝ある成跡の特殊的普通必然的解釋の根據よりあらゆる歴史及び應用國史取  
 心性陶冶の眞義・批判の要諦 扱上の諸問題に透徹して其の上に世界の  
 教材の精説と活用に対する完全なる教師文化に貢獻する直筆なる白熱的國家人  
 を教養せんとするもの他の解説書とは全然其の選を異にす敢て教育界の眞人に薦む。

東京市神田區表神保町七

大同館藏版

大 同 館 發 行 圖 書 目 録

栗山周一氏新著 ■ 四六判最上製 美本四百頁 金壹圓八拾錢 送料金十二錢 ■

杜撰尋常小學國史の批判

見よ異彩ある研究論文の發表  
 杜撰極まる新制定尋常小學  
 國史に對する一大鐵槌!!  
 教科書の缺點を最も深く知つて居る教育者は又ソレを最もよく使用する教育者である。新制定の尋常小學國史の如きは教育的に殆んど救へない位にまで杜撰極まつたものである。人間に例へるならば頗る重病なものである。本書は内容・挿畫・文章等に渡つて最も詳細に研究し教科書の病氣が何處にあるかを診察したものである。著者は自ら日本局勢になりましますし殆んど匙をなげる處まで行つた。そして教育的に價値のないばかりか却つて害がある教科書だとの斷定を下して居る。新制定の尋常小學國史をホメル人の多い世の中に確に一つ異彩のある論文である、是非一讀すべき必要がある敢て教育界へおすめする。

大川義行氏新著 ■ 〔新教員諸士第一の讀物は之れ〕

好評 嘖々  
 教師の人格を實驗教授術  
 四六判洋裝本 約三百餘頁 金五十五錢 送料八錢

國民新聞批評：本書は普通の教授法と全く其の態度を異にして其の教授は教育者の人格を中心とする意味より立論し本館に入りては世間一般の書に論じない所の緊要問題を拉し來り所謂教授上の實地の働き即ち術と云ふやうな人格の力を論じ進んで教授術の道奥は那邊にあるか等の大問題。著者が實驗研究の結果教授界に發表せるもの從來多くの著者が教材の研究教案の準備等に偏した缺點を補ふべき有益なる良書なり。

10 6 70

りたれらせ造改く如のく斯は學育教と觀

◆渡部政盛先生新著◆ 菊判最上製美本箱入 紙數七百餘頁全壹冊 金五圓八拾錢 送料金廿四錢

# 集說 批判 教育學概論

本書 六大 特色

- ▼教育概念の批判的本質的闡明
- ▼教育學概念の科學的哲學的論明
- ▼新教育學體系の模範的確立
- ▼教育基礎論なる新研究項目の特設
- ▼教授訓練二方便説の徹底的主張
- ▼最近教育思潮の批判的攝取

本書内容は(一)歴史批判(二)事實批判(三)現代思潮批判(四)目的々本質的批判に立脚して最良最善の教育原理を闡明し實際教育に對して最も根本なる最も嶄新なる規範を提供したのである。教育一般を研究の對象として科學に立脚しながら哲學を忘れず、教育の意義・教育學の概念を諸方面から縱横に考察論明し特に理論的教育學の新體系を確立し

苦心六箇年研究の結晶  
 文檢受驗者の必讀書  
 教育原理の基礎論として詳細なる被教育者論及社會人生論を試み目的概念としての文化的人格の形式内容を精説し教授訓練の二方便説に附て方法論を二分的に説述し最後に獨自の見地から教育動力論(教育者論)を試み機關論をなした。系統的てふ形容の意味は本書に於てのみ味ふことが出来やうかと思ふ。本書は眞に集說的にして批判的である。教育學研究者文檢受驗者學校圖書館の必備及清鑑を換つ所

東京市神田區 大田同發館 行發館同大 座口金貯替拆 番貳七八京

終

